

examples

① There was little water, (which extinguishes fire).

V S S V O

(火を消す水がそこにはほとんどなかった。)

② Mary came <home> <at midnight>, (which made her parents angry).

S V S V O C

(メアリーは家に深夜に帰ってきた。そのことが彼女の両親を怒らせた。)

①「火を消す」水というのは単なる補足説明なのでカンマを付ける。

②今回の非制限用法は主節全体。「メアリーの深夜帰宅」全体に補足説明がついている。

疑似関係代名詞

文法問題くらいでしかお目にかかることはないかもしれない。「先行詞が特定のものの場合、特有の関係詞を使う」というもの。

but はただの関係詞ではなく「否定語(not)+関係詞」の関係詞である。そのため、先行詞の否定語と呼応して「～のない…はない」という二重否定の構文になる。

先行詞	which の代わりに使える疑似関係詞
as, such, the same のついた先行詞	as
否定語のついた先行詞	but
比較級のついた先行詞	than

examples

③ As many foreigners (as are present <here>) like Japanese cartoons <very much>. as ≡ which

S S V C V O

(あなたが持っているような写真が欲しい。)

④ I want [to buy such a picture (as you have)]. as ≡ which

S V O ㉞ ㉞ O S V

(あなたが持っているような写真が欲しい。)

⑤ I have the same bicycle (as you have). as ≡ which

S V O O S V

(私もあなたが持っているような自転車を持っている。)

⑥ There are no rules (but have some exceptions). but ≡ which *don't*

V S S V O

(例外のないルールはない。)

⑦ I need more money (than I earn <now>). than ≡ which

S V O O S V

(今稼いでいるより、より多くのお金が必要だ。)

複合關係代名詞

正確な文法的定義や節内の形はともかくとして、これは接続詞の一部と考えた方がいい。関係詞の一部なのだが、先行詞を修飾するのではなく、全体で名詞節と副詞節としてはたらく。読む際は節内は関係詞だと思って、節全体は接続詞のカタマリだと思って読んだ方が読みやすいだろう。

名詞節を作る複合関係詞

関係詞	訳	書き換え
who(m)ever	誰でも	= anyone who
whichever	どちらでも	= anyone which
whichever 名詞	どちらの[名詞]でも	= anyone which
whatever	何でも	= anyone that

examples

⑧[Whoever (= Anyone who) enters <without permission>] will be punished.

S S V
(無断立入り者はだれでも処罰されます。)

副詞節を作る複合関係詞

関係詞	訳	書き換え
who(m)ever	(たとえ) 誰が(を)～しても	= no matter who
whichever	(たとえ) どちらが(を)～しても	= no matter which
whichever 名詞	(たとえ) どちらの 名詞 でも	= no matter which 名詞
whatever	(たとえ) 何	= no matter what
whatever 名詞		= no matter what 名詞
however	(たとえ) どんなに～しても	= no matter how
whenever	(たとえ) いつ～しても	= no matter when
	いつでも	
wherever	(たとえ) どこで～しても	= no matter where
	どこでも	

examples

⑨<Whoever (=No matter who) said it>, it is not true.

S V O S V C
(そう言った人がたとえだれであろうと、それは真実ではない。)

Original Handouts

[12] 接続詞 conjunction

CHART ～攻略への海図～

- ☐ 接続詞の原理を理解する
- ☐ 接続詞一つ一つの意味を覚える。
- ☐ 接続詞ごとの語法をおさえる。

接続詞ってなに？

文と文をつなげる接着剤の役割をするもの。



Compass ～学習の指針～

接続詞は覚えることが基本。まずは等位接続詞と従属接続詞それぞれのはたらきをおさえよう。その後は助動詞の時の学習と同じように、一つ一つの接続詞の意味を覚えていけば、文法問題に対応できる力は独学でも十分につく。

接続詞の基本

接続詞は基本的にはたらきによって、2つの種類に分けることができる。

- 接続詞
- ① 従属接続詞...文と文とをつなぐ
 - ② 等位接続詞...同じ文法要素を並列関係に並べる

従属接続詞はたくさんあるが、その全てが副詞節を作る(一部接続詞は名詞節も作れるものがある)。対して等位接続詞は数が少なく、6個ほどである。等位接続詞は、「主語と主語」「名詞と名詞」「文と文」など、同じ文法要素にあたるものを、てんびんのように釣り合わせる働きをしている。

等位接続詞

等位接続詞は文法的に等しいものを並列関係で並べるものである。

You and I play tennis.

このように書くと、一見接続詞の「文と文をつなぐ」という仕事を等位接続詞はしていないように見えるが、以下の2つの文が結ばれており、言葉が同じ部分が省略されていると考えると理解できる。

You play tennis and I play tennis.

等位接続詞は6個だけ。

等位接続詞

and そして	}	文法的に対等なものを繋ぐ
but しかし		
yet しかし		
or あるいは		
nor あるいは		
so だから	}	「文と文」しか繋がらない。
for というのも		

and but or nor の4つは、左右で文法的に対等なものであれば、なんでもつなぐことができるが、so と for の2語に関しては、文と文をつなぐはたらきしかない。特に文法問題で多いのは、for を聞く問題。等位接続詞の場合、SV, for SV の構造になるのだが、受験生の多くは for は前置詞としか考えないので、後ろが名詞ではなく SV の時点で選択肢から外してしまう。もちろん文と文を結ぶはたらきをするので、左右に文があって真ん中に位置する用法しかないが、接続としての用法を忘れないようにしておこう。

また、so と for は「原因」と「結果」の文をそれぞれ左右に並べるが、どちらを使うかによって、「原因」と「結果」が逆になるので気を付けよう。

I was tired, so I went home. 「私は疲れていた。だから家に帰った。」
原因 結果

I went home, for I was tired. 「私は家に帰った。というのも疲れていたからだ。」
結果 原因

～, + 等位接続詞の訳し方

文と文を結ぶ際、“～, 等位接続詞”の形を見かけることがある。

I was tired, so I went home.

この場合、「私は疲れていた。だから家に帰った」と訳してもいいのだが、ピリオドが打たれているわけではないので、一文を二つに切って訳す必要はない。「私は疲れていたから、家に帰った。」のように、つなげて訳すときれいになることが多いので、ぜひ活用してほしい。

～, and… 「～していて…」
～, but… 「～だが…」
～, or… 「～すなわち…」
～, so… 「～(だ)から…」

相関等位接続詞

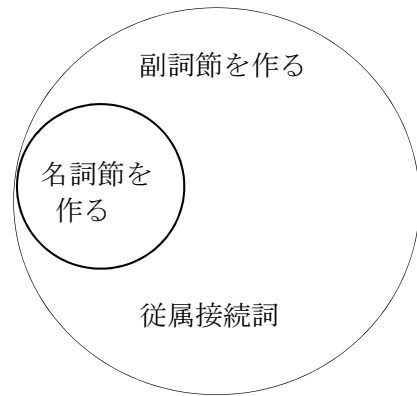
both A and B	A と B の両方 (人称は複数)
either A or B	A と B のどちらか (人称は動詞に近い方)
neither A nor B	A と B のどちらも～ない (人称は動詞に近い方)
not A but B	A ではなく B (人称は B に一致)
not only A but (also) B	A だけではなく B も (人称は B に一致)
命令文,and	～しなさい。そうすれば…(良いこと)
命令文,or	～しなさい。そうしないと…(悪いこと)
It is true～but	} なるほど～だが…(譲歩構文)
To be sure～but	
No doubt～but	
Indeed～but	
may ～but	

これらは慣用表現的に覚えてほしい。上から3つは副詞の both, either, neither がついて、等位接続詞の意味を

強めている。

従属接続詞のはたらき

従属接続詞は数はたくさんあるが、はたらきは共通なので、最初にはたらきをおさえたら、後は一つ一つ意味を覚えていくのが正しいやり方である。はたらきをまとめておくと以下の3つになる。



- ①文に文をそのままつなぐときの接着剤として
はたらく。
- ②全ての従属接続詞は副詞節を作る。
- ③that, if, whether の3つの接続詞だけは名詞節も作る。

従属接続詞(名詞節を作る従属接続詞)

名詞節を作る従属接続詞

that	～ということ	(肯定文)
if	～かどうか	(一般疑問文)
whether	～かどうか	(一般疑問文)
*間接疑問文	～か(ということ)	(特別疑問文)

この中で if と whether は副詞節も現役バリバリだが、that はほとんど名詞節ばかり作る異色な接続詞である(副詞節を作る that は so…that 構文と such…that 構文のみ)。that 節は文に肯定文を繋ぐ際に使うのに対し、if と whether は一般疑問文(Yes, No で答える疑問文)を繋ぐのに使う。

I know～＋ He is a teacher.(肯定文)

→ I know that he is a teacher.

I don't know～＋ Is he a teacher?(一般疑問文)

→ I don't know if[whether] he is a teacher.

それに加え、特別疑問文(疑問詞を使う疑問文)をつなぐ場合は間接疑問文を使うと覚えておこう。

I don't know～＋ Who is she?(特別疑問文)

→ I don't know who she is.

if と whether

if と whether は共に同じような働きをしているように思える。しかし、ifの方が whether よりも使われる範囲が狭い(ただし、使える場所では whether よりも頻繁に使われる)。

名詞節 if の限界

- ①主語・補語・前置詞の目的語になれない→他動詞の目的語のみ
×If he will come tomorrow is a problem.
○Whether he will come tomorrow is a problem.
- ②すぐ後ろに or not をつけることができない→節末ならつけてもよい。
×I don't know if or not he will return tomorrow.
○I don't know whether or not he will return tomorrow.
○I don't know if he will return or not tomorrow.

前置詞の目的語に名詞節が来る場合

英語は前置詞の目的語に名詞節を入れるのを嫌がる言語である。間接疑問文を除いて、前置詞の目的語に名詞節が来ることはほとんどない。

in that	～という点で
except that	～することを除いて

同じように、前置詞の目的語に **that** 節が来る場合、前置詞が省略されてしまう場合もある。

I was surprised **at** the news.

I was surprised ~~at~~ that he remembered my name. → (○)I was surprised that he remembered my name.

形式主語(仮主語)構文・形式目的語(仮目的語)構文

不定詞のところで学習した形式主語構文・形式目的語構文は長すぎる不定詞の名詞句を本来の位置に置くと読みにくくなるので、そこに身代わりの **it** を置いて、文末に不定詞句を移動するというものだった。今回それが **that** 節などの名詞節になっても事態は同じである。

形式主語構文

It is natural [that he should say so]. 「彼がそう言うのは当然だ。」

It doesn't matter [whether you win or lose]. 「勝敗は重要ではない。」

形式目的語構文

He made **it** clear [that he had no intention of resigning.]

「彼は辞職する意思が無いことを明らかにした。」

I think **it** certain [that our team will win.]

「わがチームが勝つのは確実だと私は思う。」

I found **it** surprising [that he couldn't solve it.]

「彼がそれを解けなかったのには驚いた。」

I took **it** for granted [that he would join us.]

「彼が我々に加わるのは当然のことだと私は思った。」

形式主語構文には不定詞・that 節以外の名詞句(節)が来ることがある。

(1) **It** doesn't matter [**whether** you agree with me or not]. (whether 節)

(2) **It** is no matter [**when** busy he is]. (wh 句) → No matter when の語源

(3) **It** is no use [**crying** over spilt milk]. (動名詞) → 限られた用例しかない(慣用表現)

時を表す副詞節

when	「～する時」	by the time	「～するまでに」
while	「～する間」	every time	「～するたびに」
until[till]	「～するまでずっと」	next time	「今度～するとき」
since	「～して以来」	the first time	「初めて～するとき」
as	「～する時、～するにつれて」	after	「～した後に」
before	「～する前に」		

ここからは基本的に意味を覚えていけばよい。~time は後ろに SV をとる接続詞の用法があることに注意。これは元々~time (when SV…) という先行詞~time に対する関係副詞節で、関係詞の **when** が省略されたものだが、単に~time SV という形で覚えてしまったほうがわかりやすいので、接続詞として考えているもの。またこれらの副詞節が未来のことを表す場合、時制は現在形を用いる。

「～するとすぐに」の意味を持つ接続詞

as soon as / the moment / the instant / the minute

これらの表現が後ろに SV をとったら「～するとすぐに」の意味になる。一見接続詞に見えないので文法問題でも読解でも狙われる。

時を表す副詞節の重要構文

□ not ... until ~	= It is not until ~ that + S + V ...	「～してはじめて...」
□ It will not be long before + S + V ~		「まもなく～」
□ S + had no sooner p.p. ... than + S + 過去形 ~		「...するとすぐに～した」
= No sooner had + S + p.p. ... than + S + 過去形 ~		
= S + had hardly[scarcely] p.p. ... when[before] + S + 過去形 ~		
= Hardly[Scarcely] had + S + p.p. ... when[before] + S + 過去形 ~		

これらの構文は読解だけでなく、文法問題でも頻出。最初の not...until SV の構文は until 「～するまで...しなかった」のだから、逆に言えば「～してはじめて...」するということになる。それを強調構文(夏期講習で扱う)で書いたものが、It is not until ~that SV の構文。また、It will not be long before SV の構文の it は「状況」を表す it。「SV するより前(before S V)の状況(it)は長くないだろう(will not be long)」と言っているのだから、わかりやすく言い換えれば「まもなく SV する」となる。最後の「...するとすぐに～した」の構文は、否定語が文頭に来ると、後ろが疑問文の語順に倒置するということをしっかり把握しておくこと。No sooner や hardly(ほとんど～ない)が文頭に来ているので、その構文は倒置を起こしている。

理由を表す副詞節

because	「～なので」	* 通常文末に置いたほうがよい。
since	「～なので」	* 文頭においてもよい。
as	「～なので」	* 文頭においてもよい固い表現。
now (that)	「今や～なので」	
not ... because ~	「～だから...でない」「...でないのは～だからではない」	

理由を表す接続詞はどれも意味は同じ。読む分には気にする必要はほとんどない。ただし、英作文をする際には少し気を付けたほうがいい。

まず文には「理由が主役」の場合と、「理由によって起こった出来事が主役」の大事な場合がある。二つの文を見てみよう。

- (1) 雨が降ったから、今日は車で来たんです。
(2) 彼は来なかっただろう。今朝お母さんが亡くなられたからなんだよ。

この場合、(1)は「車で来た」という「出来事」ことが言いたいのであり、(2)は「彼の母親が亡くなったことが言いたい」という「理由」を言いたいということがわかるだろう。英語の場合、(2)のように「理由」が重大で、そこに焦点を当てて話したい場合は because を使う。英語は大事な情報は文末に置くので、because 節も文末に置くのがふつう(分詞構文の Original handout では because 節が文頭にある文を使っているが、あれは because が諸君になじみ深いものであるために敢えて使ったもので、本当はいい英文ではない)。それに対して、(1)のように、理由を踏み台にして出来事を言いたいような場合は、since や as を使う。その場合は内容が軽いので文頭においてよい。as は since と同じように使えるが、古くて固い表現になる。

not...because についてだが、これは2つの読み方がある。次の例文で検証しよう。

He didn't come to school because he was ill.

ポイントは not がどこまでを支配しているかということ。not は自分より右側だけを否定することができるのだが、どこまで否定するかは文脈による。おそらく諸君が考えるのはこの訳だろう。

He didn't **come to school** because he was ill.

「彼は学校に来なかった。病気だったからである。」

この場合は not は四角で囲った部分を否定している。because 節は否定していない。同じ文で because 節まで否定すると、こういう訳もできる。

He didn't come to school because he was ill.

「彼は学校に来なかったのは病気だったからではない。」

同じ文で真逆の意味になっている。これは文脈で判断するしかない。

程度を表す副詞節

- | | |
|--|-------------------------|
| <input type="checkbox"/> <u>so</u> ~ <u>that</u> + S + V ... | 「とても～なので... / ...するほど～」 |
| <input type="checkbox"/> <u>such</u> ~ <u>that</u> + S + V ... | 「とても～なので... / ...するほど～」 |
| <input type="checkbox"/> S + is <u>such that</u> + S + V ... | 「S は大変なものなので...」 |

いわゆる”so …that 構文”と”such…that 構文”である。so…that 構文は不定詞副詞用法の「程度」である”so…as to V”の不定詞(崩された文)を通常の文で書いたもの。such～that 構文も同じ原理で理解ができる。so 「そんなにも」や such 「そのような」は、そのまま言われても理解できない。例を示そう。

He is very tall. 「彼は非常に背が高い。」 → 違和感なし。

He is so tall. 「彼はそんなにも背が高い。」 → …どんなにも？

It is such a fine day. 「その日はそのようないい天気だった。」 → どのような？

そこで so や such を修飾することで内容説明するために後ろに that 節をつけたのがこの構文である。この 2 パターンの場合のみ、that 節は副詞節を作っているということを理解すること。訳は 2 パターン考えられる。

I was so shocked that I couldn't move.

今解説したように、「私はそんなにもショックだった」→どんなにも？→「ほとんど動けないほど」というのがこの構文だ。これを適切に訳すには前から一気に訳す方法と、後ろから訳していったん帰ってくる方法がある。

前から一気に訳す方法

(○) 「私はショックを受けたので、ほとんど動けなかった。」

後ろから訳しかえってくる方法

(○) 「ほとんど動けないくらい、私はショックを受けた。」

これは such...that 構文も同様。

This is such a nice place that I'd love to stay here forever.

「ここはそのような素晴らしい場所だ」→どのような？→「私が永遠に住んでいたいと思うような」という構文。

前から一気に訳す方法

(○) 「ここはとても素晴らしい場所なので、私は永遠に住んでいたいと思う。」

後ろから訳しかえってくる方法

(○) 「私が永遠に住んでいたいと思うほど、ここは素晴らしい場所だ。」

通常は、前から訳していったほうがいい。なぜなら途中で間違えたとき、後ろから訳しかえしていると、全部書き直さなければいけないからだ。

ちなみに、so と such など少し独特な修飾の仕方をするため、語順が通常と異なる。詳しくは夏期講習の内容になるが、この 2 語のみ予習しておこう。

so	副詞	so	形容詞	冠詞	名詞
----	----	----	-----	----	----

It is so beautiful a flower that I took a photo.

such	形容詞	such	a	形容詞	名詞
------	-----	------	---	-----	----

This is such a nice place that I'd love to stay here forever.

今回の such...that 構文の語順が変(a such nice place ではなく such a nice place)なのはそのため。通常は冠詞の外に名詞を修飾している形容詞が出たりすることはできない(冠詞と名詞の間に形容詞が入る)が今回の so と such は別だ。

条件を表す副詞節

if	「もし～ならば」
provided	「もし～ならば」
suppose	「もし～ならば」
unless	「～しない限り」
on condition that	「～するという条件で」
once	「いったん～すると」
as[so] long as ～	「～する限り」
as[so] far as ～	「～する限り」
providing (that)	「もし～ならば」
supposing (that)	「もし～ならば」

これらの条件を作る副詞節が未来のことを表す場合、時制は現在形にしなければいけないことに注意しよう。また、これらの表現は直説法であれば基本的に未来の内容にしか使えない。もしもこれらの接続詞が作る副詞節が過去形(大過去形)の動詞をとっていたら、仮定法である可能性を考えよう。providing は仮定法を作れないので注意。

as long as / as far as の違い

文法問題で非常によく出るのは as long as と as far as の違いである。どちらも「～する限り」と訳すが、long は long time, how long～?からわかるように、時間的長さを表す。far は far east(極東), how far～?からわかるように距離や程度的な大きさを表す。そこから as long as は時間的に「～する限り」、as far as は程度的に「～する限り」を表す。比較の章の学習が終わってからここに戻ってくると分かりやすい。

As far as I can see, there stretches the desert. …物理的な距離的範囲(＝範囲)
(見る限り、砂漠が広がっていた。) ←私が見えるのと同じくらいの距離で砂漠が広がっていた。

As long as I live, I never forget you. …時間的な範囲
(生きている限り、あなたのことを忘れません。) ←私が生きているのと同じ長さで私はあなたを忘れない。

さらにこれが派生してそれぞれに以下のような意味が派生した。

As far as I know, he is the best musician. …比喩的な距離的範囲(＝程度)
(私が知る限り、彼は最高のミュージシャンだ。)

直接的な距離の話ではなく、自分の知識など概念的な距離の話をしている。あまり使用例は多くないので、いくつか知っておく。

as far as S know	「～が知る限り」
as far as S is concerned	「～に関する限り」
as far as it goes	「ある程度までは」

As long as[=if] it is interesting, any book will do. …時間的な範囲
(面白ければ、どんな本でもいいです。)

as long as I live 「私が生きているのと比べて同じくらい長く」というニュアンスは言い換えれば「もし私が生きているなら」と言ってもいいはずである。そこから as long as に if と同じような使い方をする用法が出てきた。この例文は立派な「条件を表す副詞節」であり、従属節中は現在形になっていることに注意。

譲歩・対比を表す副詞節

though[although]	「～だが」
even though	「たとえ～でも、～だが」
even if	「たとえ～でも」
while[whereas]	「～だが、一方」
whether (...or not)	「～であろうと」
as	「～だが」

For study

though / although の違い

though と although は接続詞としては同じ意味だが、though には接続副詞もあり、文頭・文末・SV 間におくことができる。

Though [Although] I was very tired, I went on working.
(とっても疲れていたが、働き続けた)

The work was hard. I enjoyed it, **though**[×although].
(仕事は大変だった。楽しかったけどね。)

even if / even though の違い

even though, even if の even は強調でついているだけなので、本質的な意味は元々の though や if と同じ。even if と even though の意味の違いは、even though は「現実を踏まえたうえで」言っており、even if は「仮定を踏まえたうえで」言っているということ。下に例を示す。

(1)(社長に向かって)たとえあなたが社長でも、このルールに従う必要があるんですよ。
→実際に社長なので even though を用いる。
Even though you are a president, you have to obey this rule.

(2)(平社員に向かって)たとえあなたが社長でも、このルールに従う必要があるんですよ。
→実際は社長ではないので even if を用いる。
Even if you were a president, you would have to obey this rule.

同じような例文を示す。

Even if I had three hours to spare, I wouldn't go around looking for a new dress.
(たとえ私は3時間の余裕の時間があっても、私は新しいワンピースを探しに行かないよ。)
→時間は実際にはない。

Even though I had three hours to spare, I couldn't find a new dress.
(私は3時間の余裕があるけれど、新しいワンピースを探しに行かなかったよ。)
→時間が実際にある。

目的を表す副詞節

in order that	「～するために・～する目的で」
so that	「～するために・～する目的で」「結果～した」
lest	「～しないように」(予防)
for fear that	「～することのないように・～するのを恐れて」
in case	「～するといけないから・～する場合に備えて・もし～ならば」(準備・対策)

in order that と so that も不定詞副詞用法の目的で扱った in order to V と so as to V の不定詞(崩された文)を通常通りの文で書いたものである。so that がくっついていれば「目的」so...that と離れていれば「程度」と判断することは、不定詞・接続詞双方共通である。so that 構文の場合は、たまに結果用法もあるので注意。後ろに続く形で注意が必要なのはそのあとの3つ。

lest の後に続く SV の動詞は、「動詞の原形」あるいは「助動詞+動詞の原形」になる。
for fear that の後に続く SV の動詞は、「助動詞+動詞の原形」になる。
in case の後に続く SV の動詞は、「現在形」あるいは「should+動詞の原形」になる。

For study

- ① Set the alarm clock **lest** that he should over sleep. Cf: アラームをセットすると寝過ぎない。
(寝過ぎといけなのでアラームをセットしておきなさい。)
- ② Take an umbrella **in case** it rains. Cf: 傘をもっていっても雨は降る。
(雨が降るといけなので傘を持っていきなさい。)

様態を表す副詞節

as	「～するように」
the way	「～するように」

the way S V はご存じ the way (how SV) の how が落ちた表現。

多義的な接続詞 as と while

as と while は複数のカテゴリーに所属する多義的な接続詞である。読解にも非常に重要な役割を果たすので、再度まとめなおしておく。

while		
① 時・同時 (～の時)	⇔	when, as
② 対比 (～している一方で)	⇔	whereas
③ 譲歩 (～だが、一方で)	⇔	though

examples

- ① She often ate Natto **while** she was in Japan.
(彼女は日本にいた時、よく納豆を食べていた。)
- ② The old man went to the mountain to gather firewood **while** his wife to the river to do the laundry.
(おじいさんは山へ柴刈に、おばあさんは川へ洗濯に行きました。)
- ③ **While** I admit that the task is difficult, I don't think that it's impossible.
(その仕事が難しいということは認めるが、それを不可能だとは思わない。)

as		
① 時 「～の時」	⇔	when
② 同時 「～すると同時に」		
③ 比例 「～するにつれて」		
④ 様態 「～のように」		
⑤ 理由 「～なので」		古い表現
⑥ 比較 「～と比べて」		as~as の後ろの as
⑦ 譲歩 「～だが、ので」		形容詞・副詞・無冠詞の名詞 + as + S + V という語順
⑧ 名詞限定		
⑨ 評言節		

Cf: 接続詞以外にも as はある。

前置詞の as	「～として」 後ろは名詞
副詞の as	「同じくらい」 as~as の前の as
疑似関係代名詞の as	such, as, the same の時に使う関係代名詞

For study

①②時・同時の as

He arrived just **as** I was leaving.
(出発しようとしかけた丁度その時、彼がやってきた。)

③比例の as

この as は従属節・主節の両方の動詞が「変化を表す語」になる。

As the sun **rose**, a fine view of the sea **came** into sight.
(太陽がのぼるにつれて、海の景色が目に入ってきた。)

④様態の as

When in Rome, do **as** the Romans do.

(ローマにいるときは、ローマ人のようにしなさい。＝郷にいては郷に従え。)

⑤理由の as

As it was getting dark, we soon turned back.

(暗くなってきたので、まもなく我々は引き返した。)

⑥比較の as と副詞の as

いわゆる as~as の比較の構文で、前の as と後ろの as は全く別物である。詳しくは比較の章を参照。

She is **as** tall **as** he.

(彼女は彼と同じくらいに背が高い。)

⑦譲歩の as

「譲歩の as」というものが存在すると言うより、as を使った通常に分詞構文の訳出の一つである。

As he is as young as he is young, he is rich.

(彼が若いのと比べて同じくらい彼は若い、彼はお金持ちだ。)

この従属節を分詞構文にして、さらに比較の構文なので重なっている young を省略する。

Young **as** he is, he is rich.

つまりこの文は、比較の文で作られた分詞構文による「文の補足説明」でしかない。なので必ずしも「譲歩」のニュアンスだとは限らず、主節との兼ね合いで訳し方を変える必要がある。

Young **as** he is, he is rich. (彼は若いのに金持ちだ。)

Young **as** he is, he is reckless. (彼は若いので向こう見ずだ。)

⑧名詞限定の as

名詞を限定する as。擬似関係代名詞の as に似ていて、接続詞の中でも唯一形容詞節を作るが、擬似関係代名詞と違って、節内は完全文であり、修飾する名詞の代名詞形が節内に入る。「～の種類としての」というようなニュアンス。

Language (**as** we know it) is a human invention

(我々が知っているようなものとしての言語は人間の発明である。)

⑨評言節の as

as 節を主節に対する「ことわり」「コメント」として使うことがある。接続詞なのだが、不完全文を作る(状況の it が省略されていると考えられている)。

As is often the case with him, he was late for the class.

(彼にはよくあることだが、彼は授業に遅刻した。)

He is, **as** Mr. Smith has told you, a genius.

(彼はスミスさんがあなたに言ったように、天才だ。)

この構文は通常疑似関係代名詞の as として教えられるが、現在の英語学ではこれを関係詞とすることは少ない。理由としてはたつきは明らかに評言節であるということ、さらに「先行詞は文全体で、先行詞の文の前に出ることもある」という説明が不自然であることが理由である。この授業ではそれに合わせ、[α-18]図で取り上げたもののみ、疑似関係代名詞の as とする。

Original Handouts

[13] 疑問文 interrogative sentences

CHART ～攻略への海図～

□疑問文の原理を理解する

疑問文ってなに？

相手に何か答えを求めて発言される文のこと。



Compass ～学習の指針～

特に理解が必要なのが、疑問詞を使った特別疑問文。これは関係詞のような理屈がはたらい
ているのだが、多くの教育現場ではそれが教えられていない。必ず理解しよう。

一般疑問文(Yes-No 疑問文)

相手に Yes か No で答えさせる疑問文を一般疑問文という。be 動詞か助動詞を文頭に出して、疑問文を作る。

You have your text book.

⇒Do you have your text book?

疑問文への答え方

日本語では「テキストもらってますか？」という疑問文には「はい、もらってます。」「いいえ、もらっていません。」と答えるのに対し、「テキストもらってないんですか？」という否定の疑問文には「はい、もらってません。」「いいえ、もらってます。」と答える。それに対し、英語の世界には Yes, I don't (I'm not).や、No, I do(I am). という答え方は一切ない。Yes と来たら後ろは肯定文、No と来たら後ろは否定文だ。"Do you have your text book?" と聞かれても"Don't you have your text book?"と聞かれても、答え方は同じ。自分が持っていなければ"No, I don't." 持っているなら"Yes, I do."だ。これは会話問題でしょっちゅう聞かれるところ。こんなところで失点しないようにしよう。

特別疑問文(疑問詞を使った疑問文)

疑問詞を使用した疑問文を特別疑問文という。中学校以来使い慣れているように思えるだろうが、疑問詞には以下の種類があることを知っているだろうか。

疑問代名詞

意味	主格・補語	所有格	目的格
誰	who	whose 名詞	who/whom
(誰の)モノ	whose	—	whose
どちらの	which	which 名詞	which
何	what	what	what

疑問副詞

意味	疑問副詞	意味	疑問副詞
場所	where	方法	how
時	when	理由	why

どこかで見た図だろう。そう、実は疑問詞は関係詞と似ている(おそらく諸君も初めて関係代名詞を習ったとき、疑問詞と似ているけど疑問文ではないのだなと感じたはずだが、慣れるうちにそんな感想は忘れているだろう。しかし実に本質的な感想だったのだ)。この2つの品詞は説明にかかわるという点で共通している。

疑問詞…わからないので説明を求める

関係詞…説明を付け足す(=先行詞を修飾)。

作り方を改めて考えてみよう。

She is Nancy.

このナンシーを聞きたいとする。ナンシーは名詞であるので、疑問代名詞に変える。さらに人で補語なので主格の who にする。それが節の前に出て、残りの部分を疑問文の語順にするとこうなる。

Who is she?

関係詞を学んでからだと、今まで当たり前にやっていたことが改めて理解されるだろう。では次の問題はどうか？

「どうしてあの女性はその質問をしているのですか？」

() is the woman asking that question for?

① why ② what ③ how ④ when

この場合、「どうして」とあるから、①why を選ぶ受験生が後を絶たない。それでは「場所」だから where というのと同じである。この疑問文をよく見てほしい。for の後ろが抜けている。前置詞の後ろは100%名詞だから、ここは名詞が抜けて疑問代名詞に変わって、穴が空いているのである。つまりこういうことだ。

The woman is asking that question for 理由.

名詞

疑問代名詞 what

理由の名詞表現が疑問代名詞に変わって前に出て行っているのだから、ここは what が入る。「何を求めてあの女性はその質問をしているのですか？」という英文を意識して「どうして～」と書いたひっかけ問題なのである。ではこれはどうか。

「どうしてあの女性はその質問をしているのですか？」

() is the woman asking that question?

② why ② what ③ how ④ when

今度は<for+名詞>の副詞で文頭に出ているので、疑問副詞「理由」の①why を選ぶ。ちなみに、前置詞+疑問詞で For what で文頭に出すこともできる。

The woman is asking that question <for 理由>.

副詞

疑問副詞 why

特別疑問文への答え方

特別疑問文は疑問詞を用いて行う疑問文であるが、重要なのは、「特別疑問文には Yes No では答えられない」ということ。一般疑問文のように「これはペンですか?」「あそこはアメリカですか?」と聞かれれば「はいいいえ」で答えることが可能だが、特別疑問文のように「これはなんですか?」「あそこはどこですか?」と聞かれたら「ペンです。」「アメリカです。」と答えざるを得ない。これは当たり前のようだが、以下を見てほしい。

A: Are you a student?

B: (1)

こんな会話問題があったとしよう。A の質問は一般疑問文である。その場合は、返事は **Yes No** でしなければいけないので、選択肢に **Yes No** でないものが入っている場合は消去できるのである。これでさらにスピードを上げて問題を解くことができる(ただし、**Maybe**「たぶんね」など一般疑問文でもわずかに使える **Yes No** 以外の表現はある)。逆に A が特別疑問文の質問をしている場合、B の返事は絶対に **Yes No** では答えられない。特にセンター試験の会話問題ではかなり役に立つテクニックである。

間接疑問文(疑問文を名詞節化する)

疑問文は当然ながら一つの文である。それをそのままほかの文に組み込むことはできない。そこで、疑問文を名詞節化することで、ほかの文に組み込めるようにしたのが、間接疑問文である。訳は「**疑問詞**～なのか？」という元々の疑問文の訳を名詞化したものなので「**疑問詞**～なのか(ということ)。」と訳す。

間接疑問文の作り方

疑問詞を次を平叙文(否定文でない文)の語順にして、”?”を”.”に変える。

Who is she?(文) 「彼女はだれか。」

⇒[who she is](名詞節)「彼女はだれか(ということ)」

is she と疑問文の語順になっていたところを she is と平叙文の形に戻し、?をとった。これによりこれは名詞節となり、S・O・C などとして使える。

[Who she is] is the question. 「彼女がだれか(ということ)が問題だ。」(S)

I don't know [who she is]. 「彼女がだれか(ということ)を私は知らない。」(O)

The question is [who she is]. 「問題は彼女がだれかということだ。」(C)

疑問詞 do you think～?

What do you think～?などの文を見たことがあるだろう。ではその構造をきちんと文法的に理解しているだろうか?

Where do you think Tom lives? 「トムはどこに住んでいると思いますか?」

この文は元々以下のような構造だった。

Do you think [where Tom lives]?

つまり、一般疑問文の中に(think の目的語に)、where の間接疑問文が入り込んだ形である。これが文法的に正しい形なのだが、この構文には大きな弱点がある。つまり、これは一般疑問文なので、返事は **Yes No** でしか言えない。この文の訳はこうなる。

「トムがどこに住んでいるかあなたは考えていますか?」

この質問に何の意味があるのだ。はい、いいえと返事をされても、トムがどこに住んでいるのかは永遠に謎である。これではトムがどこに住んでいるのかわからない。そこで、この文中から、where を文頭に出して、特別疑問文に仕上げたのが、最初の文だ。

○ Do you think [where Tom lives]?

⇒Where do you think Tom lives?

これにより「どこにトムが住んでいると思いますか?」という意味になるので、相手の返事も「ロサンゼルス」とか「ニューヨーク」とかいったものになる。

付加疑問文(確認に使う疑問文)

自分で意見を言っているときに、少し自信がなくなって「…だよな？」と相手に確認することは我々も日常でよくあるだろう。そんな時に使うのが、付加疑問文である。

「明日は朝礼がある。」→「明日は朝礼があるよね？」(付加疑問文)

英語では「明日は朝礼がある(なかったっけ?)」ということで、後ろに否定疑問文を付けて、付加疑問文を表す。逆に否定文に付加疑問文を付ける場合は、肯定文をくっつける。

肯定文→否定疑問文

否定文→疑問文

これを原則にして、パターンを見ていこう。

Tom **is** a student, **isn't** he? 「トムは生徒でしたっけ？」

Nancy **isn't** a teacher, **is** she? 「ナンシーは先生ではないですよ？」

一般動詞の場合は、後ろは do/does で置き換えることもある。

You **go** to school with us, **don't** you? 「私たちと学校行くんでしょ？」

Tom **doesn't** like apple, **does** he? 「トムはリンゴ嫌いだよね？」

助動詞や完了形も同様の原則でできる。

You **can** play tennis, **can't** you? 「テニスできたよね？」

You **have known** each other for three years, **haven't** you?

「君たちは3年来の知り合いだよな？」

命令文の場合は「してくれる？」という意味から **will you?**か **won't you?**のどちらかをつける。

Close the door, **will**[**won't**] you? 「窓閉めてくれる？」

Let's～の文は **shall we?**にする。ここまでやれば、大体大丈夫だろう。

Let's dance, **shall** we?

CHART ～攻略への海図～

- ☐ 比較のしくみを理解する。
- ☐ 実際に原級比較と比較級比較を見る。
- ☐ 比較の途中式を徹底的に行う。
- ☐ 比較の慣用表現(と言われているもの)をおさえる
- ☐ 倍数表現の作り方を覚える。

比較ってなに？

ある文とある文を並べて、その二つの性質を比べる。日本語の比較と同じ。英語教育で最もずさんな教えられ方がされている分野のひとつ(←最上級表現)。



Compass ～学習の指針～

比較は構文を丸暗記をしても絶対にできるようにならない。“比べるものを as と as で挟む”というわけのわからない解き方を捨て、「正しい知識」を身体に染み込ませること。構文的に見れば、ただの従属節＋主節に他ならないことを理解することから変化は始まる。

英作文

- (1) 彼女の姉と比べて、彼女は同じくらい美しい。
- (2) 私はあなたと同じくらいお金を持っています。
- (3) あなたが彼を愛しているのと同じくらい私は彼を愛しています。

比較のしくみ

She is beautiful. →

→ She is very beautiful. → _____
(副) とても

→ She is as beautiful. → _____
(副) _____ 比較対象が欲しい！

比較対象を書くために、もう一個文をくっつけたい。→文に文を繋ぐ代表的な役割をするのは _____ 詞。

She is as beautiful (接) S V → 「～と比べて」という意味の接続詞は _____
比較対象

注意！ 比較の as～as の構文の前の as と後ろの as は _____



(前の as は副詞, 後ろの as は接続詞)。比較の構文は as と as で挟むというのは全くのデタラメ。

She is as beautiful as her sister is beautiful.

「彼女の姉が美しいのと比べて、彼女は同じくらい美しい。」

Cf; I was very happy when I was a child.

言語は一般的に、同じ言葉を何度も繰り返すことを嫌う。英語では、特に、同じ部分は省略を行う。

She is as beautiful as her sister (is) beautiful.

「彼女の姉と比べて、彼女は同じくらい美しい。」

(注意事項)

- ・ 前の as と後ろの as は全くの別物。
- ・ 後ろの as の後に来る名詞は主格(接続詞の後の S のため)。
- ・ 一文目と二文目は同じ構成の文。

原級比較

原級=形容詞や副詞の本来の形。

① He is as tall as she. = He is as tall + as she is tall.

② He is not as[so] tall as she. = He is **not** as tall + as she is tall.

否定文の場合は副詞の as(副)同じくらい)の代わりに、so(副)そんなに)を使うことも可能。

(○)彼は彼女と比べて同じくらい背が高くはない。

(○)彼は彼女と比べてそんなに背が高くはない。

比較の否定文は、まず肯定文をつくってから、それに **not** をつければよい((1)を作ってから(2)を作る)。

慣用的な比較構文—原級編—

原級の慣用的な表現をおさえていくが、本当に暗記すべき表現は少ない。できるだけ理解して、試験本番でもいつでもその訳や読み方が導けるようにすることが、比較を攻略するただ一つの道。

<input type="checkbox"/> not so much A as B	「A というよりむしろ B」
<input type="checkbox"/> not so much as V	「V さえない」
<input type="checkbox"/> without so much as Ving	「V さえせずに」

examples

③ He is not so much a teacher as a poet.

(彼は詩人と言うより医者だ。)

④ He doesn't so much as say hello.

(彼は『こんにちは』すら言わない。)

⑤ He left without so much as saying "good-bye"

(彼はさようならも言わずに去った。)

どれも原級比較の否定の構文。**much** は「程度」を表しており、**no so much ~ (as)** で「(～と比べると)そこまでではない」という意味を表している。(3)は「彼は、詩人と比べると、先生の程度はそこまで高くない。」という意味になるので「彼は先生と言うよりは詩人だ。」、(4)は「**hello** と言うレベルと比べて同じレベルではない」ということは、「**hello** を言うレベル(の人間)ではない。」。(5)は(4)とほとんど同じ意味だが、今回は **without saying** という「前置詞+(動)名詞」の前置詞句になったバージョン。**so much as** が入り込んでいる表現。「**good-bye** を言う(レベル)と比べて、同じくらいのレベルもなく」ということで、「**good-bye** すら言わずに」となる。

For study

問 1 次の①～④の中から、正しいものを選び。

He left the farewell party, () a word of thanks. (青山学院・総文・2009)

- ①not too much for ②not much as ③as much as ④without so much as

問 2 次の①～④の中から、正しいものを選び。

Ken is not so much a scholar, () a businessman. (青山学院・総文・2013)

- ①at ②as ③with ④of

□as ~ as S can	「できるだけ～」
=as ~ as possible	

examples

⑥Call me as soon as you can.

=Call me as soon as possible.

(できるだけ早く電話ください。)

元の文はわかりやすい。Call me as soon as you can (call me soon).で「(あなたが可能なスピードと比べて)同じくらい早く電話してください。」ということで「できるだけ早く電話ください。」という意味。そこから **S can** が **possible** に変わったものが下の文。これは構文を取ることはできない慣用的なものなので、書き換え表現として覚えてしまってよい。よく書類に”**ASAP** (至急)”と書かれているのだが、これは”as soon as possible”の略。

□as ~ as ever lived	「歴史上まれな、たぐいまれな、並外れた」
---------------------	----------------------

examples

⑦He is as great scholar as ever lived.

(彼は史上極めて偉大な科学者だ。)

□as ... as 数詞	「～もの」
---------------	-------

examples

⑧He has as much as \$100. = He has as much money as he has \$100.

(彼は100ドルと比べて負けないくらいのお金を持っている) = 彼は100ドルも持っている。

as ... as には「同じくらい」という意味と「負けないくらい」という意味がある。今回は後者の意味。

□as good as	「～同然だ」
-------------	--------

examples

⑨Oh no! I failed all my exams. I'm as good as dead when my parents see my final report card.

(ああ！試験全滅！親が通知表を見る時、私は死んでいるのと比べて同じぐらいいい状態だろう(=死んでも同然だろう。))

以上のような使われ方がされだしてから、as good as に「～も同然」の意味が生まれた。

原級比較を用いた倍数表現(自習)

「～の〇〇倍」という表現は原級比較構文で、副詞の as の前に倍数表現や分数表現を置く。簡単なので自習とする。

倍数表現			分数表現		
2 倍	…	twice	1/2	…	half
3 倍	…	three times	1/4	…	quarter
4 倍	…	four times	1/3	…	one third
～倍	…	～times	2/3	…	two thirds

倍数表現の注意

- ・ 2 倍だけは twice を使う。
- ・ 3 倍以上は three times, four times, five times と基数+times を使って表す。基数というのは one, two, three, four…の数詞のこと。

分数表現の注意

- ・ 1/2 は half, 1/4 は quarter と表す。
- ・ その他の分数は「分子/分母」を「基数-序数」で表す。序数は first, second, third, forth, fifth, sixth, seventh, ninth …の数詞のこと。
- ・ 分子が 2 以上になる場合、分母に複数形の s をつける。(例) two-thirds

examples

⑩

⑪

もしくは, “倍数表現 the 名詞 of A”でも同じ意味が出る。

⑫ Tokyo Sky Tree is about twice the height of Tokyo Tower.

(東京スカイツリーは東京タワーの約 2 倍の高さがある。) ※about 副詞「だいたい」

ただし名詞は何でもよいわけではなく、size(大きさ), weight(重さ), height(高さ), length(長さ)などの程度系の名詞に限られる。

例外的な形で、倍数表現+比較級の形も存在する(非常に古い)。意味は比較級+原級と同じだが、若干曖昧なイメージもある。twice には用いないのが普通。それ以外に関しても例外的な用法だと考えておくべき。

China is twenty times larger than Japan.

(中国は日本の 20 倍大きい。)

比較級を用いた比較

比較級は原級と、副詞と接続詞を入れ替えるだけでよい。

She is beautiful.

She is very beautiful.

副詞 とても

She is as beautiful < as her sister is beautiful >.

副詞 同じくらい

接続詞 ～と比べて

↓

↓

She is more beautiful < than her sister is beautiful >.

副詞 より一層

接続詞 ～よりも

※less ④ 「より～でない」も可

注意！ 形容詞(副詞)の比較級はの場合”more + 形容詞(副詞)”をひとまとめにしたものとして考える。



(例) more+ pretty = prettier more+ easy = easier

比較級の強調表現

「ダンゼン」「飛びぬけて」「ぶっちぎり」などに当たる表現。比較級の前に置くだけ。

much / (by)far / still / even / a lot

※still はある文に被せて「それにまして～」と強調する。

Tom is more intelligent than Catherine, but Sophia is **still** more intelligent.

more 原級 than 原級の同一者比較

「メアリーはトムより背が高い。」はメアリーとトムを比べているが、「メアリーは美しいというよりかわいい。」と言った場合、メアリーと他者を比べているわけではない。このように同一人物の性質を比べる場合、more 原級 than 原級の形をとって、「同じ者の性質」を比べていることをわかるようにする。比較級がある語もこの原則に従う。

Mary is more pretty than beautiful. 「メアリーは美しいというよりかわいい。」

×prettier

理解のための英文法良問

以下の比較構文の途中式を表しなさい。作業はノートに行うこと。

初日は書く。二日目は怪しいもののみ書き、基本は目で作る。三日目以降は全て目で。

(例) He is not as tall as she.

= He is tall. + She is tall. (元々の2つの文を書く)

= He is as tall. + as she is tall. (副詞と接続詞を入れる)

= He is as tall as she is tall. (接続詞で文を繋ぐ)

= He is not as tall as she is tall. (not がある場合はつける)

= He is not as tall as she ~~is tall~~. (共通部分省略)

※小学校の算数と同じで、慣れてきたら省略してもいいが、最初はできるだけ細かく途中式を残した方がよい。

(1) He is as tall as she.

(2) He is not as[so] tall as she.

(3) He is not as[so] old as he looks.

(4) Japan is not as[so] stable as it used to be.

(5) In writing songs I've learned as much from Cezanne as I have
from Mozart.

(6) Mrs. Ryan is not so young as she looks.

(7) A man's worth is to be estimated not so much by his social position as by his character.

(8) There's as much connection between Japanese and Chinese as there is between Latin and
English.



(1) He is as tall as she.

= He is tall. + She is tall.

= He is as tall. + as she is tall.

= He is as tall as she ~~is tall~~.

まずは as と as で挟むという考えを捨てることから始めよう。

←この通り副詞の as と接続詞の as は元々違う文にいる。それがくっついたからこのように挟まって見えるだけである。

(2) He is not as[so] tall as she.

= He is tall. + She is tall.

= He is as tall. + as she is tall.

= He is as tall as she is tall.

= He is not as tall as she ~~is tall~~.

否定の not が付いた形。この場合はまず He is as tall as she. を完成させて、その後で最後の仕上げで not をつけると考えよう。よって、not は前の文にだけ必要で、後ろの文には not はつかない。

(3) He is not as[so] old as he looks.

= He is old. + He looks old.

= He is as old. + as he looks old.

= He is as old as he looks old.

= He is not as old as he looks ~~old~~.

前の文と後ろの文は動詞などが微妙に違う場合があるが、省略されるのは必ず同一語句なので、落ち着いて old を補えば後は同じ。最後に not も忘れず。ただし、looks は前の文にない語なので省略不可。

(4) Japan is not as[so] stable as it used to be.

= Japan is stable. + Japan used to be stable.

= Japan is as stable + as Japan used to be stable.

= Japan is as stable as it used to be stable.

= Japan is not as stable as it used to be **stable**.

(3)と同様に。stable は「安定している」という意味の形容詞。最後 it を省略しないように。it は確かに Japan だが、it と Japan という言葉自体は別の単語。

(5) In writing songs I've learned as much from Cezanne as I have from Mozart.

= In writing songs I've learned much from Cezanne + In writing songs I have learned much from Mozart.

= In writing songs I've learned as much from Cezanne + as in writing songs I have learned much from Mozart.

= In writing songs I've learned as much from Cezanne as ~~in writing songs~~ I have ~~learned much~~ from Mozart.

長い文だが、驚くことなかれ。省略はきちんとルール通りだ。前の文と後ろの文は同じ形が基本ということを理解すること。

(6) Mrs. Ryan is not so young as she looks.

= Mrs. Ryan is young + She looks young.

= Mrs. Ryan is as young as she looks ~~young~~.

(3)と同じ構造。慣れてきたらこのように略式で書いてもよい。最終的には目でできるように。

(7) A man's worth is to be estimated not so much by his social position as by his character.

= A man's worth is to be estimated much by his social position. + A man's worth is to be estimated much by his character.

= A man's worth is to be estimated so much by his social position. + as a man's worth is to be estimated much by his character.

= A man's worth is to be estimated so much by his social position as a man's worth is to be estimated much by his character.

= A man's worth is to be estimated not so much by his social position as ~~a man's worth is to be estimated much~~ by his character.

長くても基本通りに。副詞の as が否定文で so になっているだけ。後ろの文はほとんど省略されている。読みづらいけど、行われていることは(1)と全く同じ原理。「理解」すれば同じものだ。

(8) There's as much connection between Japanese and Chinese as there is between Latin and English.

= There's much connection between Japanese and Chinese.

+ There is much connection between Latin and English.

= There's as much connection between Japanese and Chinese

+ as there is much connection between Latin and English.

= There's as much connection between Japanese and Chinese as there is ~~much connection~~ between Latin and English.

(9) Jeff and Jenny saved as much money as they could to visit their uncle in Hawaii.

(10) The winter in Okinawa is not as cold as in Hokkaido.

(11) It was easier to find a hotel than they had thought.

(12) In England, it is always hotter in July than in September.

(13) George works much harder than Ken, who used to work in this office before.

(14) Jim is more kind than wise.

(15) The new drug is safer, and has fewer side effects than the former treatment.



(9) Jeff and Jenny saved as much money as they could to visit their uncle in Hawaii.

- = Jeff and Jenny saved much money to visit their uncle in Hawaii. + They could save much money.
- = Jeff and Jenny saved as much money to visit their uncle in Hawaii. + as they could save much money.
- = Jeff and Jenny saved as much money as they could save much money to visit their uncle in Hawaii.
- = Jeff and Jenny saved as much money as they could ~~save much money~~ to visit their uncle in Hawaii.

(10) The winter in Okinawa is not as cold as in Hokkaido.

- = The winter in Okinawa is cold. + The winter in Hokkaido is cold.
- = The winter in Okinawa is as cold. + as the winter in Hokkaido is cold.
- = The winter in Okinawa is not as cold as ~~the winter~~ in Hokkaido ~~is cold~~.

(11) It was easier to find a hotel than they had thought.

- = To find a hotel was easy. + They had thought to find a hotel was easy.
- = To find a hotel was easier. + than they had thought to find a hotel was easy.
- = To find a hotel was easier than they had thought ~~to find a hotel was easy~~.
- = It was easier to find a hotel than they had thought.

比較級も副詞と接続詞を変えるだけで対処可能だ。形式主語の構文だが、最初から形式主語構文でいちいち書くのは面倒なので元の形に戻して、最後に形式主語に変えた。

(12) In England, it is always hotter in July than in September.

- = In England, it is hot in July. + In England it is hot in September.
- = In England, it is hotter in July. + than in England it is hot in September.
- = In England, it is always hotter in July than ~~in England it is hot~~ in September.

always は not と同じように最後に後乗せで。

(13) George works much harder than Ken, who used to work in this office before.

- = George works hard. + Ken, who used to work in this office before worked hard.
- = George works harder + than Ken, who used to work in this office before worked hard.
- = George works much harder than Ken, who used to work in this office before ~~worked hard~~.

比較級の強調は「特定の語句を比較級の前に置くだけ」。always や not と同じように最後乗せで。

(14) Jim is more kind than wise.

- = Jim is kind. + Jim is wise.
- = Jim is more kind. + than Jim is wise.
- = Jim is more kind than ~~Jim is~~ wise.

同一人物の比較「～というより…だ」は”more 原級 than 原級”の形にする。使い方は特殊だが、構文の作りはシンプルだ。

(15) The new drug is safer, and has fewer side effects than the former treatment.

- = The new drug is safe, and has few side effects. + The former treatment is safe, and has few effects.
- = The new drug is safer, and has fewer side effects. + than the former treatment is safe, and has few effects.
- = The new drug is safer, and has fewer side effects than the former treatment ~~is safe, and has few effects~~.

卒業試験は and が二つの比較級を並列したもの。これも慌てずにルール通りにやっていけばきちんとできる。ここまでできるようになったら、とりあえず比較の仕組みは理解できたと言えるだろう。

慣用的な比較構文—比較級編—

二者比較 (the 比較級 of the two)

「2つのうちの〇〇な方」という比較の仕方をする。この表現は最上級表現の転用である。元々は最上級表現を使っていたが、「最上級は『3つ以上の中で一番』という時に使うもので、『2つの中で一番』という言い方はおかしい」という意見が出て来たことで、最上級の部分だけを強引に比較級に変えた。それがこの二者比較である。

examples

⑬ He is the taller of the two.

(彼は二人のうちの背のより高い方だ。)

Cf; 最上級 He is the tallest of the three. 「彼は三人の中で一番背が高い。」

He is the **tallest** of the two. 「彼は二人のうち、一番背が高い。」

↓

He is the **taller** of the two. 「彼は二人のうち、背のより高い方だ。」

比較級らしくない形なのは、この表現が本来最上級だからということがわかれば理解しやすいだろう。最上級の形をまだ覚えていない場合は、最上級を学習してから戻ってくるのもいい。

副詞の the を用いる比較

副詞の the というのはなじみが薄いだろうが、元々は by という単語で、by that にあたるものだったのだが、時を経て the と書かれるようになったものなので、冠詞の the とは異なる。by that と同じ意味なので「それによって」という意味を持つ。今回はさらにわかりやすく「すればするほど」と訳す。

the 比較級~, the 比較級... 「~すればするほど、より一層…」

examples

⑭ The higher you go up, the colder it becomes.

(登れば登るほど、一層寒くなる。)

⑮ The more we learn about the universe, the more complicated it appears to be.

(宇宙について知れば知るほど、それは複雑なもののように思える。)

the 比較級~, the 比較級...構文の作り方

①元の文を用意する。

You go up high, it becomes cold.

②the 比較級の形にする。

You go up the higher, it becomes the colder.

③the 比較級を前に出す。

The higher you go up, the colder it becomes.

末尾が be 動詞になった場合、省略されることもある。

The more different the cultural background (is), the more difficult communication is likely to be.

(文化背景が異なれば異なるほど、コミュニケーションはより一層難しくなりそうなものである。)

all the 比較級 for[because]...	「～だからいっそう」
none the 比較級 for[because]...	「～だからといって…ということはない」

この表現は以下の構造を取る。綺麗な訳を覚える前に、まずは原理をおさえること。

all the 比較級 for[because]理由 = …を理由にそれだけ一層～
 強調 それだけ一層比較級 ～を理由に

none the 比較級 for[because]理由 = …を理由にそれだけ一層～ということはない。
 否定 それだけ一層比較級 ～を理由に

この場合の none は副詞で「全く～ない」という意味。理由の表現は句で表したければ for でいいし、節で表したければ because でもいい。要するに理由を表せばいいので because of などを使ってもいい。

examples

⑩ I love her all the more for her kindness.

(彼女の親切さを理由にそれだけ一層彼女を好きになる。)

= (彼女は親切なのでより一層好きです。)

⑪ I love her none the less for her faults.

(彼女の欠点を理由にそれだけ一層彼女を好きじゃなくなることはない。)

= (欠点があっても、私は彼女を変わず好きだ。)

no[not] 比較級 than 系

<input type="checkbox"/> no more than A	「A しかない」
<input type="checkbox"/> not more than A	「せいぜい A くらいだ」
<input type="checkbox"/> no less than A	「A もある」
<input type="checkbox"/> not less than A	「少なくとも A はある」
<input type="checkbox"/> no more A than B	「A が…でないのは B と同じである。」(クジラ構文)
<input type="checkbox"/> no less A than B	「A が…なのは B と同じだ。」(クジラ構文)

否定語の確認

not 「…ではない」の否定語
 He is not my friend.
 He is not young.

no ×0 の否定語
 I have no friends.
 I have no money.

no 比較級 than の表現は_____を打ち消すことによって、インパクトのある表現をするためのもの！(not 比較級 than は通常の否定文。)

examples

⑬ He has \$100.

(彼は 100 ドル持っている。)

⑭ He has not more than \$100.

(彼が持っているのはせいぜい 100 ドルだ。)

⑮ He has not less than \$100.

(彼は少なくとも 100 ドルは持っている。)

⑯ He has no more than \$100.

(彼は 100 ドルしか持っていない。)

⑰ He has no less than \$100.

(彼は 100 ドルも持っている。)

ラテン比較級

ラテン語の比較級の名残が残っている比較級がある。この5つの場合は、接続詞 **than** ではなく、**to** を用いる。形容詞が元々ラテン語なので独特のつづり方をする分、覚えやすい。

<input type="checkbox"/> be superior to～	「～より優れている」	cf; 『スペリオール』
<input type="checkbox"/> be inferior to～	「～より劣っている」	
<input type="checkbox"/> be senior to～	「～より年を取っている」	cf; シニア
<input type="checkbox"/> be junior to～	「～より若い」	cf; ジュニア
<input type="checkbox"/> prefer A to B	「B より A を好む」	

examples

- ②③ His idea is superior[inferior] to mine.
(彼の考えは私の者より優れている[劣っている]。)
- ②④ He is senior[junior] to my grandfather.
(彼は私の祖父よりも年を取っている[若い]。)
- ②⑤ I prefer playing soccer to watching.
(私はサッカーは観るよりプレイする方が好きだ。)

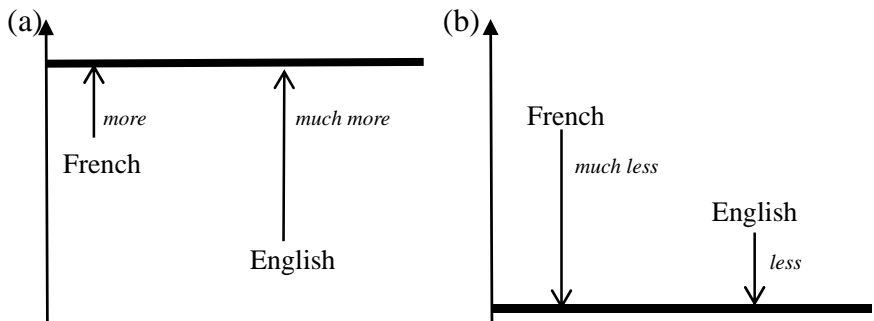
肯定文, much more/ 否定文, much less

前の文を受けて、「それに比べれば～はさらに…だ」と意味を添える表現。比較級に強調をつけて表す。

肯定文, much[still] more	「～ならばなおさらだ」
否定文, much[still] less～	「まして～ない」

examples

- ②⑥ (a) He can speak French, much more English.
(彼はフランス語ができる。英語はなおさらだ。)
- (b) He can't speak English, much less French.
(彼は英語も話せない。フランス語なんてもってのほかだ。)



「彼」の言語能力グラフ(太線が彼の能力)

no more[less] than/ not more[less] than の演習

※この演習はノートや教科書を見ずに自分の記憶と理解を基に行うこと。

問1 次の各文の「否定される前の期待」を答えよ。

問2 次の各文を自然な日本語に訳せ。

no more than A / no less than A / not more than A / not less than A

1. He has no more than 5000yen.
2. He has no less than 5000yen.
3. He has not more than 5000yen.
4. He has not less than 5000yen.
5. The princess is no bigger than a thumb.
6. The princess is not bigger than a thumb
7. He has no less than 100 computers in his house.
8. The regime will last no more than six months.
9. The regime will last not less than six months.
10. He is not younger than my father.
11. He is no older than my father.
12. The depth of the cave was not more than 200 meters
13. The video camera is no bigger than my hand.
14. There were not more than twenty people in this room.
15. Human beings can live for no more than seven days without water.

クジラ構文 (**no[not] more[less] ~ than**)

16. A Whale is no more a fish than a horse.
17. Chimpanzees can no more speak than they can fly.
18. Nobita can no more swim than a hammer can.
19. You can no more make yourself an artist than you can make yourself a giraffe.
20. Making good friends is no less important than making money.
21. Dolphins are no less mammals than a human being is.
22. He is no more perfect than U.S. president is.
23. Sleeping too much is no more healthy than eating too much is.
24. Love is important, but money is no less important than love.
25. My father is not more strict than my teacher.

ヒント

- 1.期待(先入観)を否定することでわかりやすく説明するのがこれらの構文。
- 2.否定語を取り除くと期待(先入観)を表す文になる。→問1
He has more than 5000 yen →彼は 5000 円よりは多く持ってるだろう。
- 3.no は”×0”の否定語, not は「～ではない」の否定語。
no more than → more の部分が 0 ということ。
5000 円より多い部分はない=5000 円
- 4.「こういう先入観は間違ってますよ。全然そんなことないんですよ。」と言いたい。→問2
He has no more than 5000 yen → 彼は 5000 円しか持ってない。



1. He has no more than 5000yen.

問1 彼は 5000 円よりは多くもっているだろう。

問2 彼は 5000 円しかもっていないかった。

2. He has no less than 5000yen.

問1 彼は 5000 円は持っていないだろう。

問2 彼は 5000 円も持っている。

3. He has not more than 5000yen.

問1 彼は 5000 円よりは多く持っているだろう。

問2 彼が持っているのはせいぜい 5000 円だろう。(5000 円以上持っているということはない。)

4. He has not less than 5000yen.

問1 彼は 5000 円は持っていないだろう。

問2 彼は少なくとも 5000 円以上は持っている。(5000 円より下ということはない。)

5. The princess is no bigger than a thumb.

問1 そのお姫様は親指よりは大きいだろう。※親指より小さい姫なんて普通いないからね。

問2 そのお姫様は親指ほどしかない。

6. The princess is not bigger than a thumb

問1 そのお姫様は親指よりは大きいだろう。

問2 そのお姫様はせいぜい親指ほどしかない。(親指より大きいことはない。)

7. He has no less than 100 computers in his house.

問1 彼はコンピューターを 100 個以上持っていることはないだろう。 ※普通そんなに持たないからね

問2 彼はコンピューターを 100 個も持っている。

8. The regime will last no more than six months.

問1 現政権は半年は続くだろう。

問2 現政権は半年しか続かないだろう。

9. The regime will last not less than six months.

問1 現政権は半年も続かないだろう。

問2 現政権は少なくとも半年は続くだろう (半年続かないということはないだろう。)

10. He is not younger than my father.

問1 彼は私の父より若いだろう。

問2 彼はせいぜい私の父くらいの年だ (私の父より若いということはない。)

11. He is no older than my father.

問1 彼は私の父より年を取っているだろう。

問2 彼は私の父と同じくらいしか年を取っていない。

12. The depth of the cave was not more than 200 meters

問1 その洞窟の深さは 200 メートルを超えるだろう。

問2 その洞窟の深さはせいぜい 200 メートルだった。(200 メートルは超えることはない。)

13. The video camera is no bigger than my hand.

問1 そのビデオカメラは私の手よりは大きいだろう。 ※昔ビデオカメラは大きいものだったからね

問2 そのビデオカメラは私の手と同じくらいしかない。

14. There were not more than twenty people in this room.

問1 その部屋の中に 20 人以上はいただろう。

問2 その部屋の中にいたのはせいぜい 20 人だ。(20 人を超えることはない。)

15. Human beings can live for no more than seven days without water.

問1 人間は水なしでも 7 日以上は生きられるだろう。 ※水なくてもなんとかかなりそうだよ

問2 人間は水なしでは 7 日しか生きられない。

16. A Whale is no more a fish than a horse.

問1 クジラは馬よりも魚だろう。 ※クジラの方が魚に見えるよね。

問2 馬が魚ではないようにクジラも魚ではない。

17. Chimpanzees can no more speak than they can fly.

問1 チンパンジーは飛ぶよりは、喋りそうだ。

問2 チンパンジーが跳ぶことができないように、喋ることもできない。

18. Nobita can no more swim than a hammer can.

問1 のび太はカナヅチよりは泳げそうだ。 ※カナヅチは泳げもしないからね。

問2 カナヅチが泳げないように、のび太も泳げない。

19. You can no more make yourself an artist than you can make yourself a giraffe. (慶應大学文学部)

問1 人はキリンになるよりは、芸術家の方がよりなれそうだ。 ※キリンに比べたらさすがに…

問2 人はキリンになれないように、芸術家にもなれない。(芸術家は生まれつき芸術家だという意味)

20. Making good friends is no less important than making money.

問1 親友をつくることは、お金を稼ぐより重要じゃなさそうだ。 ※親友作っても食べていけないしね

問2 親友を作ることはお金を稼ぐのと同じくらい重要だ。

21. Dolphins are no less mammals than a human being is.

問1 イルカは人間ほどほ乳類じゃないだろう。 ※クジラの文と同じです。

問2 イルカは人間が哺乳類であるのと同じようにほ乳類だ。

22. He is no more perfect than U.S. president is.

問1 彼はアメリカの大統領よりは完璧だろう。 ※あのアメリカの大統領よりはねえ…という皮肉です。

問2 彼はアメリカの大統領と同じくらい不完全だ。 ※アメリカの大統領並にダメなやつということ。

23. Sleeping too much is no more healthy than eating too much is.

問1 寝すぎることは食べすぎる事よりは健康的だろう。 ※食べ過ぎたら成人病になるからね。

問2 寝すぎることは食べすぎるのと同じくらい非健康的だ。

24. Love is important, but money is no less important than love.

問1 お金は愛ほど重要ではないだろう。

問2 愛は大切だ。しかし、お金も愛と同じくらい大切だ。

25. My father is not more strict than my teacher.

問1 私の父は私の先生より厳しいだろう。

問2 私の父の厳しさはせいぜい私の先生くらいだ。(私の先生より厳しいということはない。)

no more[less] than/ not more[less] than の復習

この表現の共通点は「〇〇だと思ってるでしょ？実は違うんだよ！」というニュアンスであるということ。例えば以下の例文を見てみよう。

Nobita can no more swim than a hammer can.

「カナヅチが泳げないように、のび太も泳げない。」

この文がどうしてこんな意味になるのかを考えよう。その前に以下のクイズに答えてみよう。

カナヅチ(大工道具)とのび太だったら、どっちが泳げる？

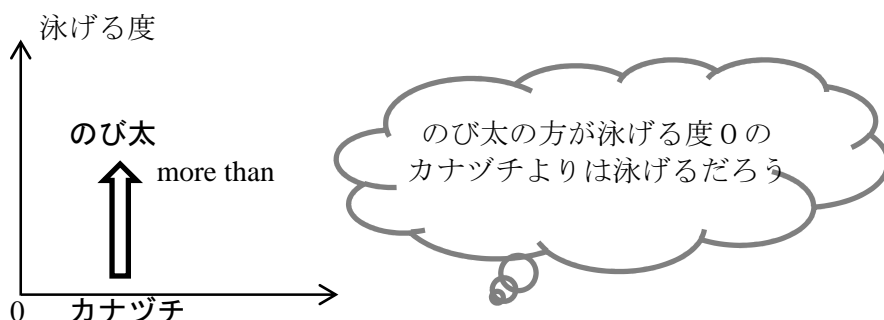
元々、皆の先入観(期待)には、こういう気持ちが無意識にある。

のび太は泳げないことは知っているが、それ以前にカナヅチって物でしょ(笑)？生き物ですらないカナヅチは全く泳げないから、カナヅチと比べたらさすがにのび太の方が泳げるんじゃない…？

英文にすると

Nobita can more swim than a hammer can. (のび太はカナヅチよりもより泳げる)

って感じ。これが、皆の先入観ですよ。グラフにしてみると例えばこんな感じかな。



ところが、それを否定するのが、以下の2つの文。

Nobita can **no** more swim than a hammer can.

Nobita can **not** more swim than a hammer can.

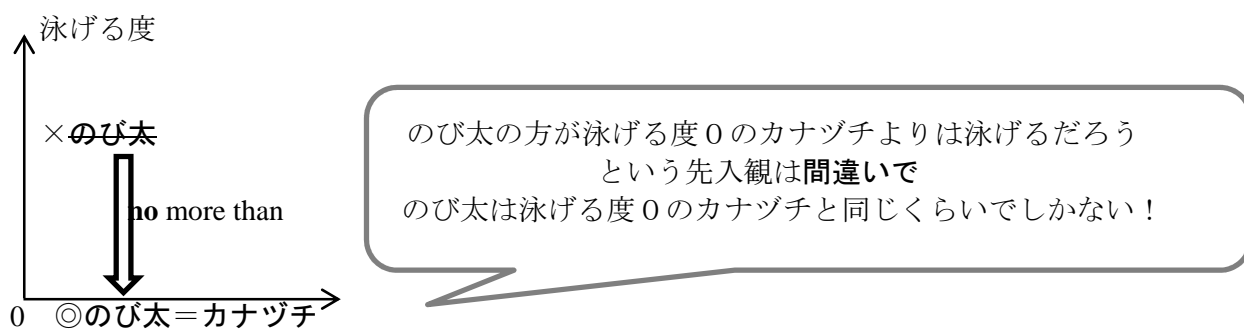
これらの文は最初のように「のび太はカナヅチよりも泳げると思ってるでしょ？それが違うんだよ！〇〇なんだよ！」という表現。先入観を否定して正しい表現を教えるという形は日常でもよく使われる。こういう風に言えば、「ええ、そうだったんだ！」という風になるからね。ただ、否定語に **no** を使うか **not** を使うかで否定の仕方が違うということに注意しよう。

no = × 0 の否定語

not = 「～ではない」の否定語
(普通の否定文と同じ)

no から行こう。例えば、I have three friends. というと「私は3人の友達がいる。」という意味。でも I have no friends. というと何人？……0人ですよ。ね。「友達×0を私は持ってます。」＝「私には友達がいません！」ということです。

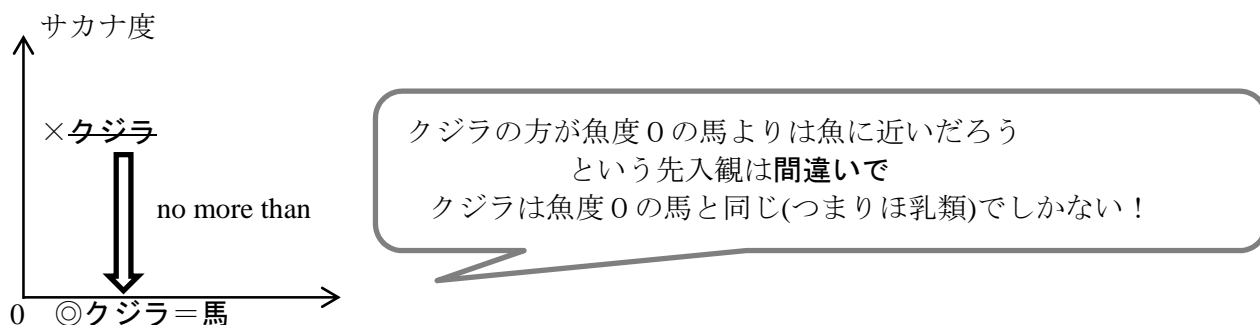
じゃあ、Nobita can **no** more swim than a hammer can.はどういう意味になるでしょうか。「のび太はカナヅチよりも泳げる。」と思ってたけど、**違うよ！2人の差(moreの部分)は0だよ！**って意味になるわけ。グラフにするとこうです。



ということで、今回はどういう訳になる？そう、「のび太はカナヅチと同じくらい泳げる。」だね。…でもこれって日本語おかしいでしょ？これじゃカナヅチが泳げるみたいじゃん。カナヅチは泳げないものとして使ってるんだから、訳は「カナヅチが泳げないように、のび太も泳げない。」って言う訳になります。こういう構文を、「クジラ構文」って言うのね。なんでそんな変な名前なのかっていうと、以下の例文が代表的な文としてよく教えられてきたからです。ちょっと見てみよう。

A Whale is no more a fish than a horse.

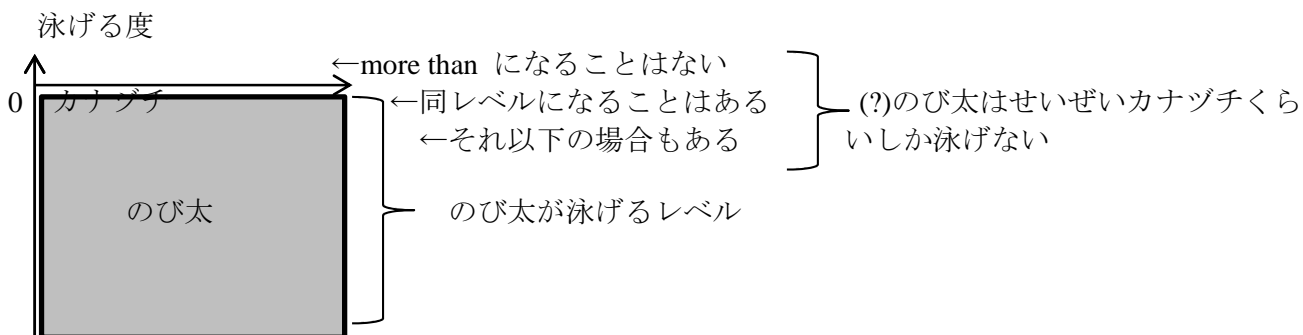
ね。クジラの文でしょ。だからクジラ構文。日本の英語教育史上最も間違っって教えられた構文です。これも同じように、クジラと馬を比べると、クジラは馬より魚っぽいでしょ？「先生バカですか(笑)クジラは哺乳類ですよ(笑)」って？いや、僕らはそんなことを NHK の教育テレビや学校で習って知ってるけれど、何も知らない子どもや海のないところに住む人が、初めてクジラを見たら普通「うわ！でっかい魚だ！」と思うよね。それに、もし「生物学的に考えて、馬とクジラ、どっちが遺伝子的に魚に近いでしょう」ってクイズが出たら、詳しくない僕らだってつい「クジラ？」って答えるでしょ。今回はその先入観を否定しているわけ。「クジラは馬と比べて more fish じゃないよ！！no more だよ！馬と一緒にだよ！」って。馬はサカナ度いくつ？…まあ、0だよ(笑)。馬を見ても魚は連想しませんよね。でもその点クジラは馬よりサカナ度が高く見えます。ところが！！知っての通り、クジラも馬と同じ哺乳類であって、**全然魚じゃない**んだよね。だから、上の例文でそう言ってるわけ。「クジラは魚だって思ってるでしょ？でもクジラのサカナ度って、馬のサカナ度と比べて、同じだよ！」。それってどういうこと？「馬もクジラも魚だ」って言いたいのか？違うよね。どうみても馬のサカナ度は0だから、「**馬もクジラもどっちも魚じゃない！**」ってことになる。もしクジラを魚っていうなら馬も魚ってことになっちゃうよ！だってどっちもほ乳類だもん！ってね。



こんな風に、一見勘違いしやすいものを、明らかに違うものと「同じだ」っていうことで、わかりやすく説明しているわけ。「過ぎたるは及ばざるがごとし」とかもそうだ。「やり過ぎ」って、必要量は超えてるから一見よさそうでしょ？でもそれはいけないわけ。足りないのは誰がどう考えてもいけないけど、やり過ぎもそれと同じくらいだ、つまり、**どっちもダメだ**って言うてるわけよ。英語で言うところの構文を使うの。それが no more than / no less than / no 比較級 than の構文の意味でした。

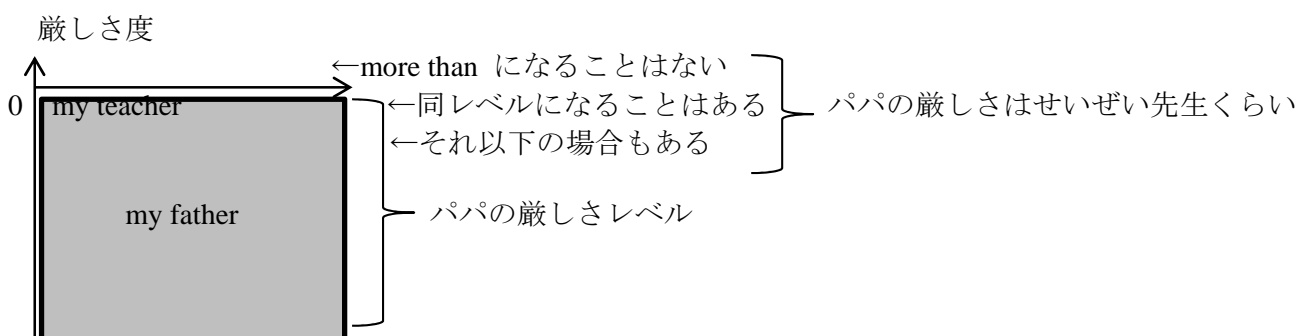
じゃあ、次は否定語が not の場合を考えますよ。さっきののび太の例文を Nobita can **not** more swim than a hammer can.って否定したらどうなりますか？これはいつも読んでるただの否定文だからね。簡単です。He is not young.といったら「彼は若くない。」だよ。これと同じように訳して「のび太はカナヅチ以上泳げ

るということはない」って意味になる。今度は「カナヅチを超えるようなことはない」ってこと。きれいな日本語で訳そう。「良くてせいぜいカナヅチくらいしか泳げない」ってことです。more になることはありませんって意味になる。図にしてみましょう。



つまり、良くてカナヅチと同じ、悪ければカナヅチ以下。少なくとも、「カナヅチを超えることはない」って意味ね。でも、まあ、泳いですらないカナヅチ以下っていう概念はないよね。だからこれはどんなにのび太の水泳能力がひどくても、さすがにあり得ない文です(書いたら×だね)。でもこういう文ならあり得ますよ。

My father is **not** more strict than my teacher.



「私の父が私の先生より厳しいということはない。」ってことね。つまり、「私の父の厳しさはせいぜいうちの先生くらいかな。」ということです。先生が甘ければお父さんも甘いし、先生が超怖ければ、お父さんも超怖いし、先生が厳しくてお父さんが甘いパターンもあります。ただし、**お父さんが先生より厳しいことはない**。そういう意味です。否定語が not の場合は、あまり期待(先入観)を考える必要はないですね。こんな風に普通に読めばいいから。ちなみに no more than も not more than も more が less になったら、さっきのグラフを逆にすればいいだけです。まとめますよ。

まとめ

no more ...than → ～しかない (=only)

(more than だと思いがちだが) 一緒です！→「なーんだ、それしかないんだ」

He gave me no more than 5000yen. ... 彼は 5000 円しかくれなかった。(貰った額=5000 円)

no less ...than → ～もある (=as many[much] as)

(less than だと思ってたら) 一緒です！→「え！そんなにあるんだ！」

He gave me no less than 5000yen. ... 彼は 5000 円もくれた。(貰った額=5000 円)

※He gave me no more than 5000yen.も He gave me no less than 5000yen.もどちらも貰った額は 5000 円。でも元々の貰えるだろうと思っていた期待の違いで、表現が変わる。

not more ...than → せいぜい～くらい (=at most)

more than ということはありません。→「まあ 5000 円は超えないだろう」→「せいぜい 5000 円」

He gave me not more than 5000yen ... 彼がくれたのはせいぜい 5000 円だ。(貰った額=0～5000 円)

not less ...than → 少なくとも～はある (=at least)

less than ということはありません。→「まあ 5000 円はきらないだろう」→「少なくとも 5000 円」

He gave me not less than 5000yen ... 彼は少なくとも 5000 円はくれた。(貰った額=5000 円～∞)

ここまで理解して初めて no more than=only っていったような言い換え表現が生きてくるんだよ。あと、テキストでは P134 の(2)が今回の範囲だけど、①と②で、more と than の間に Xが入っているかどうかで訳が全然違うように見える。でもさっき説明したとおり、考え方は全く同じだからね。ただの日本語の問題です。もう一回 Nobita can no more swim than a hammer can. と He gave me no more than 5000yen. の 2 つを比べて、同じ考えだということを確認して、終わりにしましょう。

He gave me no more than 5000yen.

これはまず、5000 円以上貰えると期待していたんだよね。だけど、5000 円との差は no(0)だった。なーんだ、5000 円しか貰えなかった～(´Д`)…というわけで「5000 円しかくれなかった。」

Nobita can no more swim than a hammer can.

これも同じで、のび太はカナヅチより泳げると期待していたんだよね。なにせカナヅチは泳げないから。だけど恐ろしいことに、のび太とカナヅチの差は no(0)だった。

なーんだ、のび太とカナヅチは同じくらい泳げるのか～(´Д`)…だと日本語がおかしいので、
「カナヅチが泳げないのと同じようにのび太も泳げない。」としただけ。

わかりましたか？これが全てです。紙にしてしまうと 2 枚で収まるようなことなんだけど、これを教えてもらっている受験生は残念ながらほとんどいません。学校や多くの塾では「ここはややこしいから注意して丸暗記しなさい。」って言われるだけです。だから受験にもこのまんまバンバン出ます。これを頭の中でやりまくって、当たり前にしておいてください。そうすれば難関大学でもこれが出てきて、「え？この何が難しいんだ？」って当たり前で解けるから。

最上級表現

最上級は_____ではない！！

Cf:今までの比較

She is as beautiful as her sister.

She is more beautiful than her sister.

今までは「同じくらい美しい」「もっと美しい」などという表現によって、「何と比べているの？」という疑問がわき、後ろにその比較対象を表す副詞節をつけてきた。ところが最上級は「一番〇〇」と言っているの、周りと比べてはいない。よって比較対象をつける必要はない。

最上級の作り方

the + most 形容詞 { of 複数名詞(all や数詞も可)
 most 副詞 { in 単数名詞

※「最も〜でない」という意味にするときは most の代わりに least を使う。

最上級に the が付かない場合

副詞の最上級

the という冠詞は本来名詞につくものである。しかし形容詞の最上級にも the をつける。これはなぜだろうか？例文を用いて検討する。

He is **the tallest** in the class.

(彼はクラスで最も背が高い。)

この文をよく考えると、tallest の後に boy という名詞が感じられる。He is the tallest (boy) in the class. ということだ。よって、ここには the がついていると考えられる。それに対して、次の文はどうだろうか。

He can run **fastest** of the three.

(彼はその三人の中で最も速く走る。)

この文は副詞の fast が最上級になっているが、この場合 fast の後ろに名詞は感じられない。He can run fast. だけである。なので副詞の最上級には the をつけないと言える。ちなみに後ろの the three は、the three (boys) という風に名詞が感じられるので the がついている。

絶対最上級

ラーメン屋などで「日本一うまい！」などを書いてあるのを見たことがあるだろう。しかし、それは本当に日本中の店と比べたのかと言えば、まず違うだろう。このように、本当に比べたわけではないが、強い表現で言いたいときに「絶対最上級」という表現を使う。これは very と同じ意味で使っていると考えると良い。

絶対最上級では the+最上級の形は使わず、それが単数名詞であれば a+most+原級+単数形、複数名詞であれば、most+原級+複数形の形を取る(必ず most+原級をとることに注意)。



examples

②⑦ Tom is **a** most clever man. (絶対最上級) ⇔ Tom is **the** most cleve**st** man in this class. (最上級)
(トムはとても賢い。) (トムはこのクラスでは最も賢い。)

(×) Tom is a cleverest man.

②⑧ This book is **cheapest**. (絶対最上級)
(この本はとても安い。)

同一者比較

前にやった **Mary is more pretty than beautiful.**と同じ理屈のもの。「この川はここが最も深い。」と言う場合、やはり他の川と比べているわけではない。その場合最上級の同一者比較を使う。the を付けない最上級がそれにあたる。文法問題で頻出。

The lake is deepest at this area.

(この湖はこの辺りが一番深い。)

最上級の強調表現

「ダンゼン」「飛びぬけて」「ぶっちぎり」などに当たる表現。最上級の前に置くだけ。

much / by far /very

今回は very が使える。ただし、very は他の強調語と違って、the の中に置く。

She is **by far[much]** the best singer in this country.

That music is **the very best** in the world.

その他の最上級表現

①the 序数 最上級 「～番目に...な」

最上級は必ずしも 1 番のものにしか使えないわけではない。序数を最上級の前につけることによって、「○番目に大きい」などと言うことができる。

Kitadake Mountain is the second largest mountain in Japan.

(北岳は日本で二番目に大きな山です。)

一位・・・富士山 3,776m (山梨県・静岡県)

二位・・・北岳 3,193m (山梨県) <南アルプス>

三位・・・奥穂高岳 3,190m (長野県・岐阜県) <北アルプス>

②one of the 最上級 複数名詞

「最上級のものの 1 つ」という表現。当然母体は複数あるので one of the 最上級 複数名詞になる。

Waseda University is one of the highest level universities.

(早稲田大学是最難関大学の一つだ。)



③the last 名詞 「最も～でない名詞」

後ろに不定詞などを伴って、「最も～でない名詞」を表す。

He is the last person to tell a lie.

(彼は嘘を決してつかない人だ。)

直訳すると「彼は嘘をつく最後の人だ。」である。人間を「嘘つき順」にランキングしていくと、彼は「最後の人」なのだから、イコール「決して嘘をつかない人」となる。

④the 最上級 名詞 (that) S have ever p.p. 「今まで～した中で一番…」

This is the best film that I've ever seen.

(これは私が今まで見た中で最良の映画だ。)

結果的に最上級表現になる表現

原級や比較級を使っても、状況的に最上級になる表現を挙げる。

原級

否定語を主語にした文を使うことで最上級に「近い」表現はできる。

- ① No other student is as tall as Tom. 「トムは他のどの生徒より背が高い。」
- ② Nothing is as important as health. 「健康ほど大切なものはない。」

比較級

比較級は以下のような表現をすることで、最上級の代用を行うことが可能だ。ただし、④の場合、他のものに負けてはいないという意味で、最上級のように単独トップで一番とは言っていない。

- ③ Tom is taller than any other student. 「トムは他のどの生徒より背が高い。」
- ④ No other student is taller than Tom. 「トムより背の高い生徒はいない。」
- ⑤ Nothing is more important than health. 「健康より大切なものはない。」

Original Handout

[15] 名詞・代名詞の語法 noun & pronoun

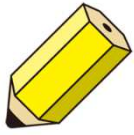
可算名詞・不可算名詞

名詞は数える名詞(可算名詞)と数えられない名詞(不可算名詞)に分けることができる。

区切りや形がはっきりしていて、単数形・複数形の扱いをするものを可算名詞、区切りのはっきりしない、単複の扱いの無いものが不可算名詞である。例えば、水などは区切りや形ははっきりしていないので数えられない。

綺麗に可算名詞と不可算名詞に分かれるわけではない。冠詞や複数形の-s を付けている時は「その名詞の区切りや形が明確化されている」ため、可算名詞として使われている。対して冠詞や複数形の-s がいない場合は「その名詞の区切りや形は明確化していない」ということで、その「種類」や「目的」のことを言っていると考える。

具体名詞を無冠詞で使う場合、不可算名詞(抽象名詞)として使える(種類やその目的を表す)。

a pen (具体名詞)	pen (抽象名詞)
	鉛筆
具体的に 1 本の鉛筆	鉛筆という種類・イメージ
with <u>a</u> pen	(一本のペンを使って)
in pen	(ペンという種類の中で=ペンで)
(△)In <u>a</u> pen	(一本のペンの中で=ペンの中に入って)
by pen	(ペンという手段で)
by <u>a</u> pen	(1 本のペンによって)
I go to school.	(私は生徒です。) school=授業 go to school=授業を受ける
I go to the school.	(私は学校の建物のところへ行きます。) the school=学校
Go to bed!	(寝なさい!) bed=寝る
Go to the bed!	(ベッドのところへ行きなさい!) the bed=ベッド
I love Panda !	() Panda=
I love Pandas!	(パンダ大好き!) Pandas=動物としてのパンダ

通例不可算名詞扱いをする名詞

しかし、通常使う場合は不可算名詞になるものがある。区切りや形がちゃんとすることがないものである。抽象名詞と集合名詞である。これらは不可算名詞として覚えておこう。

抽象名詞

具体名詞 … 具体的なものを指す。数えることができる。

抽象名詞 … 抽象的なもののイメージ。原則として数えない(不可算名詞)。

代表的な抽象名詞 (人の頭の中の概念で、具体的な形がない)

advice (助言) information (情報) news (ニュース) behavior (ふるまい) damage (損害)
fun (おかしみ) good (益) harm (害) work (仕事) homework (宿題) housework (家事) music (音楽)
luck (運) progress (進歩) weather (天気) wisdom (知恵)

集合名詞（一式全体を指す言葉。原則として数えない）

代表的な集合名詞

furniture (家具) baggage (荷物) luggage (荷物) clothing (衣服) equipment (付属品) mail (郵便物)
fiction (フィクション) poetry (詩) machinery (機械類) jewelry (宝石類) stationary (文房具) scenery (風景)

複数扱いする集合名詞

police (警察機構) cf: 警察官は a police officer
people (人々) cf: 可算名詞で使うと「民族」
family (家族) cf: 単数としても使える。

場面によって使い分けが必要な名詞

お金

<input type="checkbox"/> charge	「サービス料、＜ガスなど＞公共料金」
<input type="checkbox"/> fare	「運賃」
<input type="checkbox"/> fee	「＜専門職への＞報酬、入場料、入会金」
<input type="checkbox"/> fine	「罰金」
<input type="checkbox"/> cost	「経費、費用」
<input type="checkbox"/> interest	「利子」
<input type="checkbox"/> pay	「報酬、手当て」
<input type="checkbox"/> tax	「税金」

客

<input type="checkbox"/> audience	「観客」
<input type="checkbox"/> client	「依頼人」
<input type="checkbox"/> customer	「顧客」
<input type="checkbox"/> guest	「招待客、宿泊客」
<input type="checkbox"/> passenger	「乗客」
<input type="checkbox"/> patient	「患者」
<input type="checkbox"/> spectator	「観客」
<input type="checkbox"/> viewer	「視聴者」
<input type="checkbox"/> visitor	「訪問者」

予約、約束

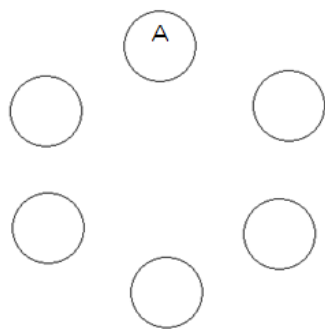
<input type="checkbox"/> appointment	「＜人と会う＞約束・医者予約」
<input type="checkbox"/> promise	「＜何かをするという＞約束」
<input type="checkbox"/> reservation	「予約」= booking

相互複数（必ず複数形で用いる名詞表現）

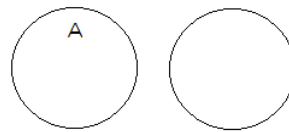
必ず複数形で用いる表現をまとめておく。よく考えればこの表現をするには二つ以上の名詞がなければいけないことがすぐわかるだろう。

<input type="checkbox"/> make friends with ～	「～と友達になる」
<input type="checkbox"/> shake hands with ～	「～と握手する」
<input type="checkbox"/> take turns (in / at) doing ～	「交代で～する」
<input type="checkbox"/> be on ... terms with ～	「～と...の間柄である」
<input type="checkbox"/> change trains	「電車を乗り換える」
<input type="checkbox"/> be in low [bad / poor] spirits	「機嫌が悪い」
<input type="checkbox"/> take pains	「苦勞する」
<input type="checkbox"/> change hands	「持ち主が変わる」
<input type="checkbox"/> come to terms with ～	「～を受け入れる」

one と other の問題



(図 1)



(図 2)

one と other の問題の解法

1. 特定できるかどうか — ①できる場合は the をつける
②できない場合で単数なら a をつける
2. 複数かどうか — ③複数の場合は s をつける
④単数の場合はつけない

※特定できる＝名前が言える

名前特定ゲーム

あなたは A さんです。あなたは友人と一緒にいます(上の図)。あなたは今、鬼として外に出されました(=one)。その後、もう何人かがゲームから除外されます。その人の名前を当てられる(=特定出来る)でしょうか。

(図 1)

あの後もう 1 人抜けました →

あの後もう 3 人抜けました →

あの後もう 5 人抜けました →

(図 2)

あの後もう 1 人抜けました →

部分詞 of 特定の範囲

「あるものの内のいくらか」という意味を表す用法。部分詞(both/ either/ neither/ none/ each/every/most/ almost all/many/much 等)は形容詞として直接名詞につけることもできるが、代名詞として of 名詞を後ろにつけることもできる。ただし、代名詞 of 名詞の形にする場合、その名詞は所有格や冠詞 the など「特定された状態」にしなければならない。

Many people read this book. (形容詞)

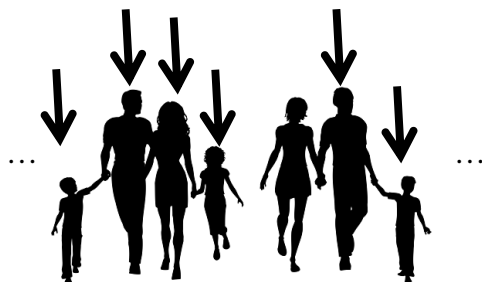
「多くの人がこの本を読んでいる。」

Many of **the** people read this book (代名詞 of 名詞)

「その人々の多くがこの本を読んでいる。」

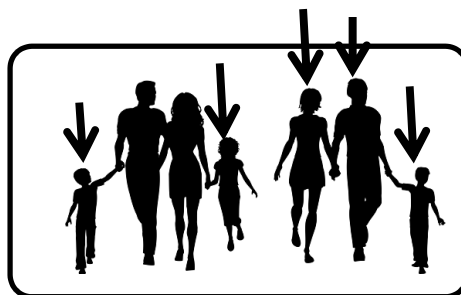
most people 「ほとんどの人々」

= 人々なら誰でもほとんどそうである



most of **the** people 「その人々の内のほとんど」

= (ある) 人々の中で、そのほとんど



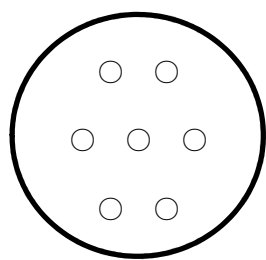
= 枠組みがあるので特定できる

both/either/ neither/ none

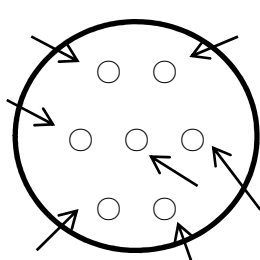
both	…両方(とも)	複数扱い
either	…(2 つの内の)どちらか どちらも, 両方とも	単数扱い
neither	…(2 つの内の)どちらも…ない	単数扱い
none	…(3 つ以上の)どれも…ない	単数扱い

each と every の問題

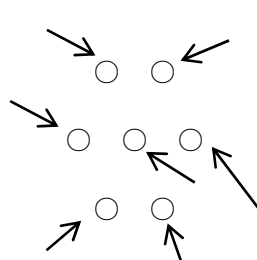
all boys



every boy



each boy



意味はどれも「全ての男子」だが...

all は全てを集団として見ている。…複数扱い

every は一人ひとりを見ていった結果、集団になっているイメージ。…単数扱い

each は一人ひとりのイメージ。…単数扱い

「全ての男子がそれを知っている。」

(○) All **boys** know it. 男子という生き物、皆がそれを知っている

(○) Every **boy** knows it. 男子という生き物、一人ひとりがそれを知っている(その結果全員が知っている)。

(○) Each **boy** knows it. 男子一人ひとりがそれを知っている。

each と every は必ず単数扱い！ただし、一人ひとりを見ていく each はものが2つ以上あれば使えるが、every は「集団」として見ているので、ものが3つ以上ないと使えない。

※ただし、every の場合、以下のケースは「3日」をヒトカタマリに見ているので、複数名詞をとっているように見える(each は必ず単数)。

He comes to see us every three days.
(彼は3日毎に訪ねてくる。)

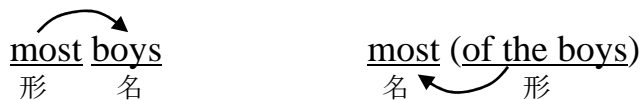
most と almost の問題

most	形容詞 a. ほとんどの
	代名詞 n. ほとんど
almost	副詞 ad. ほとんど、あと少しで

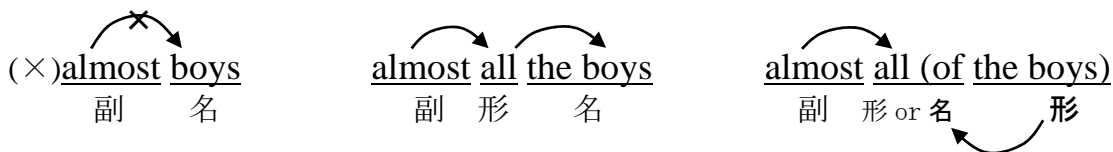
almost は副詞なので、直接名詞にかけることはできない！

コツ：訳語が「ほとんど」だと日本語的に「副詞」なのか「名詞」なのかがわからないので、almost は「あと少しで」と覚えるとわかりやすい。

「ほとんどの少年」

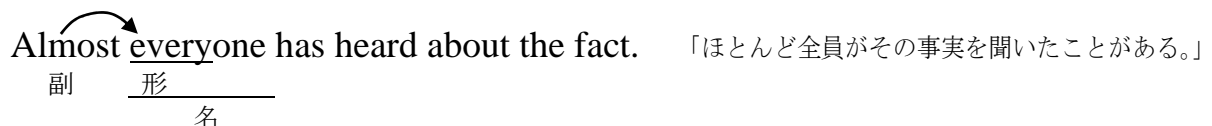


左の例文は most が形容詞的に使われている。右は代名詞として使っている形。この形の場合は、後ろの名詞句は「of+特定された名詞」でなければならない。以下の場合には注意が必要だ。



左の例文のように almost は副詞なので、原則として名詞にはかかれぬ。almost を使って、「ほとんどの名詞」の意味を出すには、真ん中か右の形にしなければいけない。真ん中の例文は副詞の almost が一旦形容詞 all にかかり、形容詞 all が名詞にかかることで結果的に「ほとんどの名詞」の意味を表している。

右の例文は文法的に解釈すると、almost は「形容詞」の all にかかっているように感じるが、of the boys は後ろから形容詞句として「名詞」の all を修飾しているように感じている。almost は「あと少しで」という意味であることを考えよう。今回は almost が形容詞的に「名詞」の all にかかっている「あと少しで全員」という名詞句を作り、後ろからも形容詞句がかかっていると考えよう。文法ではなく、「意味」からアプローチをかける必要がある。almost は副詞であるが、意味的に形容詞的な修飾をすることがある。以下の例も見ておこう。



この文も副詞 almost が名詞 everyone にかかっているように見える。しかしこの文も意味的に「あと少しでみんな」という意味を作るために可能である。文法的に解釈すると「everyone の every(形容詞的な部分)にかかっている。」と説明する。almost boys の形が不可能なのは「あと少しで少年」となってしまう、文法的にだけでなく、意味的にも不自然だからだと考えよう。このように、almost を「あと少しで」と捉えることで、日本語的なアプローチでも、ネイティブの感覚に迫ることが可能である。

Original Handout

[16] 形容詞・副詞の語法 adjective & adverb

形容詞の語法—限定用法と叙述用法

形容詞の働きは2つしかない。さんざん言ってきたことであるが、最後の復習としてまとめておく。

- | | | |
|-------|--------------|----------------|
| ①限定用法 | 名詞に直接ついて説明する | a pretty girl |
| ②叙述用法 | 補語(C)になる。 | She is pretty. |

名詞に直接くっついて、その名詞の説明をするのが限定用法(関係詞節もその一部だ)。girl は girl でも”pretty”な”girl”と、girl の種類を「限定」しているので「限定用法」と呼ぶ。第2文系や第5文系の補語(C)の位置に入って、SやOの名詞の説明をするのが叙述用法だ。ここでは、限定用法と叙述用法の使い方をさらに細かく見ていく。

限定用法でしか使わない形容詞

(1)-en の語尾をもつ形容詞

golden	wooden	woolen	spoken	drunken
--------	--------	--------	--------	---------

(2)元々比較級・最上級の形容詞だったもの

elder	latter	inner	outer	upper
-------	--------	-------	-------	-------

叙述用法でしか使わない形容詞

(1)a-の接頭辞をもつ形容詞

alike	alive	asleep	awake	afraid	alone	ashamed	aware	amiss
-------	-------	--------	-------	--------	-------	---------	-------	-------

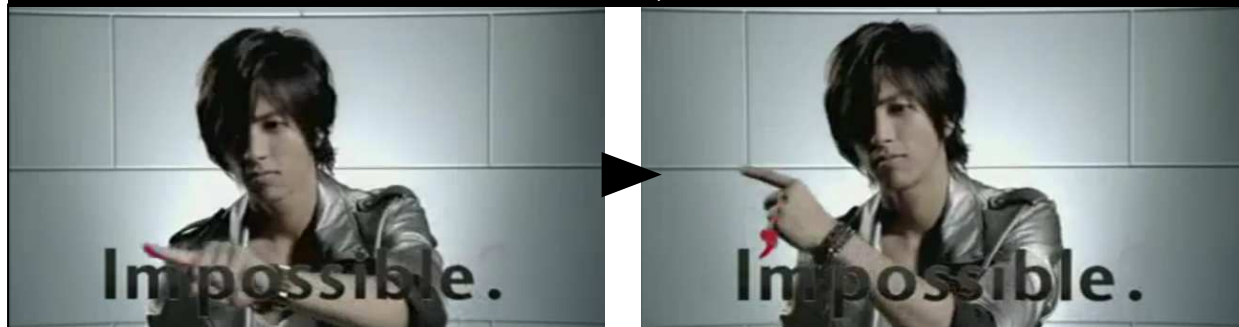
限定用法と叙述用法で意味が変わる形容詞

certain	限定用法	「ある」	叙述用法	「確かな」
present	限定用法	「現在の」	叙述用法	「出席している」
late	限定用法	「故(死人につける)」	叙述用法	「遅れている」
able	限定用法	「有能な」	叙述用法	「できる」

人を主語に取れない形容詞

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> impossible / possible |
| <input type="checkbox"/> convenient / inconvenient |
| <input type="checkbox"/> necessary / unnecessary |
| <input type="checkbox"/> important / unimportant |
| <input type="checkbox"/> easy / difficult / hard / dangerous |

やっちまったよ、山P!!



言っていないよ、オードリー・ヘップバーン！！

NOTHING is impossible,
the word itself says I'm Possible
- Audrey Hepburn



“不可能なことなんてないわ。言葉が自分で言ってるじゃない。I'm possible って！”

形容詞の使い分け

形容詞は同語源で別の単語に派生したものもある。その場合、形が似ているので意味を見分けづらい。要するに覚えてしまえばいいのだが、やはり丸暗記だと不安なのである程度の材料を提供しよう。接尾辞の知識を使えばある程度は楽に覚えることができる。

接尾辞

-ful 「～でいっぱいである(full)」

Cf; beautiful(美しさでいっぱい)=美しい

careful(注意でいっぱい)=注意深い

-able -ible 「できる(可能)」「され得る(受動)」

-ive -ic -ical (形容詞化する)

No.	単語	意味	覚え方
1	imaginary	想像上の	
2	imaginative	想像力豊かな	想像力豊かなネイティブ(native)
3	imaginable	想像しうる	imagine + able(可能)
4	literal	文字通りの	5 とセットで覚える
5	literally	文字通り	[副詞] 4 とセットで覚える
6	literary	文学の	
7	literate	読み書きのできる	
8	respectful	尊敬している	respect(尊敬) + full(いっぱい)
9	respective	各々の	respect(点) + -ive(形容詞化)
10	respectable	立派な	リスペクトされる立派なテーブル
11	forgetful	忘れっぽい	forget + full(いっぱい)
12	forgettable	忘れられている	forget + able(受動)
13	regretful	後悔している	regret + full(いっぱい)
14	regrettable	後悔されるような	regret + able(受動)
15	industrial	産業の	
16	industrious	勤勉な	
17	sensitive	敏感な	sense + ive(形容詞化)
18	sensible	分別のある	sense + ible(可能)
19	economic	経済の	
20	economical	経済的な、儉約の	
21	social	社会の	social net seivice (SNS)
22	sociable	社交的な	social(社会で) + able(成功)できる
23	successful	成功した	success(成功) + ful(いっぱい)
24	successive	連続した	success(引き継ぐ) + ive(形容詞化)

For study

問 1 次の①～④の中から、正しいものを選び。

I know she is an () girl. She is making fantastic poems.

- ①imagined ②imaginary ③imaginable ④imaginative

形容詞の適切な使い方

(1)「～料」には high/low

値段が高い・安いと聞くと真っ先に浮かぶのが cheap や expensive だろうが、これらは「(物の)値段が高い」という意味である。例えばペンやノートなど、お店で売っている商品に対して使うものだ。salary(給料)や cost(費用)、price(価格)、rent(家賃)など、「～料」などは店で買うものではないし、「家賃の値段が高い」とは言わないだろう。「～料」は high/low で表すと覚えておこう。

(2)「量」には large/ small

「人口が多い」と言う時、「多い」は many とか much で表したくなるが、これも不適切。「人口が多い」というのは「人」がたくさんいるのであって、「人口」がたくさんあるわけではない。人口は一つであり、そのサイズが大きいか小さいかだろう。よって、人口・数や料には large や small が使われる。

(3)その他

その他の表現には慣用的なものがある。まず heavy/light を使って表される「交通」や「ご飯」。これらは完全に慣用的なものである。日本語でも「軽い朝食」というが、別に重さの話をしているわけではないだろう。また「回線が混んでいる」という時に、「回線がビジー状態です」というように、渋滞は busy を使って表す。「誤った」という表現は wrong を使う。これらはどちらかというと会話問題でよく出るのでチェックが必要だ。

数量表現

	可算名詞につく	不可算名詞
たくさん	many	much
ほとんど～ない	few	little
少し～ある	a few	a little
かなり～ある	not a few / quite a few	not a little / quite a little

many と much の使い方はいいだろう。名詞・代名詞の語法でやったように、不可算名詞(区切りのハッキリしない名詞)には much を使う。few と little も同じであるが、こちらは混同しやすいので気を付けよう。「little(リトル)は litter (リットル)と似ている。little は水に使う単位だ。水は不可算なので little は不可算名詞につく」と覚えれば中学生みたいだが、意外と忘れない。これらの表現は「ない」ということを言う否定表現であることを覚えておこう。対して a few や a little は a がついて分「ある」と覚える。これらは肯定表現である。それを強調する quite a few などは「かなり～ある」という意味になる。

副詞の語法—名詞と間違えやすい副詞

副詞の語法として覚えるべきものはほとんど訳を覚えるだけで終わってしまうものばかりなので、ここでは新しい知識のみを取りあげる。

名詞と間違えやすい副詞

<input type="checkbox"/> home	「家へ」
<input type="checkbox"/> abroad	「海外へ」
<input type="checkbox"/> downtown	「町へ」
<input type="checkbox"/> upstairs / downstairs	「階上へ / 階下へ」

【会話表現】

I'm home! 「 」

be 動詞

①(第2文系) [SVC] 「～である」

②(第1文系) [SV] 「 」

TAKE ME HOME, COUNTRY ROADS (冒頭)

Almost heaven

West Virginia

Blue Ridge Mountain

Shenandoah River

もはや天国(といってもいい場所)

ウェストバージニア

ブルーリッジ山脈

シェナンドー川

Life is old there

Older than the trees

Younger than the mountain

Growing like a breeze

そこでの生活は古い

樹木よりも古く

山々よりは新しい

今日もそよ風のように育まれて

Country Roads take me home

To the place I belong

West Virginia mountrain momma

Take me home country Roads.

カントリーロード 私を家まで連れて行って

私が育ったあの場所に

ウェストバージニア 母なる山へ

連れて行ってよ カントリーロード

I go abroad I go to school.

I come back from abroad

副詞の語法—so as too how[however] 形 冠 名

いくつかの副詞は冠詞と名詞の間から形容詞を引っ張り出す働きをする。

通常のルール

冠詞と名詞の間に入った要素は必ず最終的に名詞を修飾する。形容詞は冠詞の外からは修飾できない。

I like the pretty girl.

(×) I like pretty the girl

ただし、副詞の so as too how [however] の 4 語が付いた場合、語順が変化する！

so / as / too / how 形容詞 ← 冠詞 名詞

so / as / too / how[however] は「形容詞にだけかかっているように見せたい(名詞にかかっているように見せたくない)」ため、形容詞だけを冠詞と名詞の間から引っ張り出してくる。そのため、語順が変化する。

覚え方：

She is so kind a girl that everyone loves her. <so...that 構文>

He is as great a scholar as ever lived.

Three months is too short a time to finish the English study. <too...to 構文>

How beautiful a flower this is! <感嘆文>

似たような例に such(形容詞)がある。こちらは語順が異なるので気を付ける事。

such a 形容詞 名詞

覚え方：“such a beautiful flower”というフレーズを覚えておく

You can't master English in such a short time.

For study

問 2 次の①～④の中から、正しいものを選び。

It was () I took a day off from work. (青山学院・総文・2011)

① a lovely day ② a such lovely day ③ so a lovely day ④ such a lovely day

Original Handout

[17] 動詞の語法 verbs

自動詞と他動詞

他動詞と間違いやすい自動詞

reply (to) 「返事をする」	start(from/for) 「出発する」	arrive (at/in) 「到着する」	get(to) 「到着する」
apologize (to 人 for 理由) 「謝る」	compete (with) 「競争する」	complain (about) 「出発する」	

自動詞と間違いやすい他動詞

marry 「～と結婚する」	attend 「～に通う」	mention 「～について言う」	reach 「～に到着する」
obey 「～に従う」	resemble 「～に似ている」	oppose 「～に反対する」	leave 「～を去る」
contact 「～と連絡を取る」	discuss 「～を議論する」	accompany 「～についていく」	enter 「～に入る」
mire 「～をほめる」	excel 「～にまさる」	answer 「～に答える」	stand 「～に耐える」
approach 「～に近づく」	survive 「～より長生きする」		

同じ語源の語から自動詞・他動詞両方に派生した語

lie-lay-lain-lying	自動詞:横たわる/C のままにいる
lay-laid-laid-laying	他動詞:～を横にする
lie-lied-lied-lying	自動詞:嘘をつく
rise-rose-risen-rising	自動詞:上がる
raise- raised-raised-raising	他動詞:～を上げる/～を育てる
arise-arose-arisen-arising	自動詞:起こる
wind-wound-wound-winding	自動詞:曲がる 他動詞:～を巻く
wound-wounded-wounded-wounding	他動詞:～を傷つける
find-found-found-finding	他動詞:～を見つける
found-founded-founded-founding	他動詞:～を設立する

For study

問 1 次の①～④の中から、正しいものを選び。

The waiter () the plate on the table, wiped it with a clean cloth, and replaces it in the glass cabinet.

①laid ②lain ③lay ④lied

(青山学院・総文・2011)

問 2 次の①～④の中から、正しいものを選び。

A number of problems () behind the delay of the project.

①laid ②lain ③lie ④lied

(青山学院・総文・2012)

文型

第1文型をとる動詞 — 自分ひとりでできる動作を表す動詞

第2文型をとる動詞 (これらの動詞の文は第3文型でない可能性を疑う)

状態」を示す動詞

be「Cである」	hold「Cのままでいる」	keep「Cのままでいる」
lie「Cである」	remain「Cのままでいる」	stay「Cのままでいる」

「変化の結果」を示す動詞 (全て「Cになる」の意味を表す)

become / come(良い状態になる)	get(良くない状態になる)	go(良くない状態になる)
grow(次第にある状態になる)	fall(急に状態になる)	turn(一気に違う状態になる)
prove (to be) (～であるとわかる)	turn out (to be) (～であるとわかる)	

「外観」を示す動詞

look (Cに見える)	seem(Cのように思える)	appear(外観がCのように思える)
sound(～のように聞こえる)	feel (～のように感じる)	smell (～のように匂う)
taste(～のような味がする)		

第4文型をとる動詞 (これらの動詞の文は第5文型でない可能性を疑う)

与える系

give 型 (相手が必要な動作)

allow(与える) bring(持ってくる) deny(与えない) do (与える) feed (餌をやる)
hand (手渡す) lend (貸す・与える) mail (郵送する) offer (申し出る) owe (借りている)
pass (手渡す) pay (払う) post (郵送する) promise (約束する) read (読んであげる)
refuse (断る) sell (売る) send (送る) show (見せる) teach (教える) tell (言う) write (書く)

buy 型 (相手が必ずしも必要ない動作)

sing (歌う) make (作る) do (する) order (指示する) find (見つける) get (手に入れる)
cook (料理する) choose (選ぶ) pick (つむ) play (演奏する) reach (取る) leave (残す)

奪う系

take (かかる) cost(犠牲にさせる) save(省く) spare(与えない) owe(借りている)

使役動詞・知覚動詞

使役動詞

make	O 原形不定詞	—が～するという状況を作る	=	—に(強制的に)～させる
	(-) (～)			
have	O 原形不定詞	—が～するという状況を持つ	=	—に～させる/(頼んで)してもらう
	(-) (～)			
let	O 原形不定詞	—が～するという状況を放っておく	=	—が～するのを許す/好きにさせる
	(-) (～)			

知覚動詞 (一例)

feel see watch stare gaze glimpse glance hear smell taste observe